

平成 26 年度 第 1 回栄区セーフコミュニティ推進協議会 こども安全対策分科会

日時：6 月 23 日（月）11 時 00 分～

場所：栄区役所新館第 8 会議室

次 第

1 開 会

2 平成 26 年度こども安全対策分科会委員の紹介

3 議事及び報告

(1) 平成 25 年度の活動実績及び平成 26 年度の取組目標について

(2) 子どもの見守りに関わる活動の P R について
別紙

4 その他

5 閉会



平成 26 年度第 1 回こども安全対策分科会 議事録

日時：平成 26 年 6 月 23 日（月）11 時～12 時

場所：区役所新館 8 号会議室

出席者：【委員】（小学校校長会）瀬尾先生、（PTA連絡協議会）免出代表、
（子ども会連絡協議会）片岡代表、（はまっ子・キッズ連絡会）錦田代表、
（保育園長連絡会）岡代表、（子育て支援団体連絡会）本田代表
【事務局】林学校支援・連携担当課長、米岡子ども家庭支援課長、梗間地域力推進担当係長、
宍戸子ども家庭係長、桜井、金山、山本

3 議事及び報告

（1）平成 25 年度の活動実績及び平成 26 年度の取組目標について

（事務局から説明）

片岡代表：各団体で取組を行っているが、その結果どうなったかがデータで出てきていない。昨年度よりも取組の結果、事故・怪我が減ったというデータが出ていればより良いのではないかな。

自分の団体だけで取り組むのではなく、他の団体と連携していくとより良い効果が出ていくのではないかな、セーフコミュニティが広がっていくのではないかな。今でも取り組んではいても、町内会等においても、セーフコミュニティに関わっているということが浸透していない。町内会長や団体の長がセーフコミュニティに関わっていることを自覚して、場面場面で言っていくことがセーフコミュニティの意識を高めていくことになるのでは。一般の町内会の方々、区民の方々にはまだセーフコミュニティが浸透していない。

子ども会ではイベントごとにKYTを行っている。その結果、子どもたちや保護者の方々にも意識してもらい、大きな事故やけがなしにイベントを行うことができた。良い取組を行っていると思っている。もし、他の団体でKYTを受けたいということであれば、声をかけて欲しい。

片岡代表：こども 110 番の取組は引き続き行っていくのか。

免出代表：5 月 8 日に連絡会を実施した。今年も行っていく。昨年度よりも少し増えている。

片岡代表：学校ではどこの家にこども 110 番のプレートが貼ってあるか把握しているのか。

免出代表：桂台小学校では地図にマーカーして掲示をしている。また、登下校の際に保護者と一緒に各家庭で確認してもらっている。朝礼のときに校長先生に説明してもらったりしている。

片岡代表：各個人の家には地図はあるのか。

| | |
|---------------------------------|--|
| | <p>免出代表：各個人の家にはない。</p> <p>片岡代表：校外委員がこども110番の家となっているお宅にビラを配ったりしているのか。</p> <p>免出代表：やっている。一年間のお礼と引き続きよろしく申し上げます、ということでもわっている。校外委員は名簿も持っている。</p> <p>ヤングフェスティバルでもブースを一つ設けて周知活動を行った。</p> <p>瀬尾先生：こども110番も難しい面があり、登下校のときにいつも家になくてはならないのか、と心配して躊躇する方もいる。街にプレートが貼ってある家が増えることによる抑止効果もあると思う。</p> <p>片岡代表：抑止効果が大きいのでは。</p> <p>免出代表：募集のお手紙と一緒にQ&Aをつけている。家になくても大丈夫ということや、何かあったときは保険で対応できるということは書いてある。</p> <p>片岡代表：プレートは交換できるのか。</p> <p>免出代表：校外委員が見回りをする際にチェックして、破損の場合等は交換している。</p> <p>瀬尾先生：こども110番の家をまとめて公表などは個人情報の問題もあり難しい。</p> <p>片岡代表：学援隊は各学校で組織されているのか。</p> <p>瀬尾先生：何かしらの形で組織されている。</p> <p>片岡代表：学援隊も協力したいができないという人もいる。やめた人の後になかなか補充が難しいという状況ではないか。</p> <p>免出代表：その通りです。</p> |
| <p>(2) 子どもの見守りに関わる活動のPRについて</p> | <p>片岡代表：大会は虐待など他の団体との共催という形になるのか。虐待は専門的な分野になってくると思うが。</p> <p>米岡課長：地域での子育てを見守っていくことが、虐待の予防につながっていくということに大きく広げて考えていかないと、単純に虐待ということだと子どもの安全の中で浮いてしまう。地域における子育て支援という視点で考えていきたい。</p> <p>片岡代表：主任児童委員などは専門家になってくると思うが、自分の立場で言うとうと地域の中での見守りや気遣いということになってくる。</p> <p>米岡課長：たとえば、子ども会に出てきている子どもがいつも季節にそぐわない恰好をしているとか、そういうことにアンテナを張る人が地域や学校の中に何か所もあって、ネットワークを張っていくことが大事だと思う。そういう視点から考えていきたい。</p> <p>本田代表：子育て広場に来ている母親たちの中でも、少し子どもに対する接し方が変かな、と思う人もいる。そういう場合はボランティアの中で共有したり、確実におかしい場合は区役所やケアプラにつないだりもす</p> |

る。地域の中でも声をかけたりしている。子育て広場においても、虐待につながるようにしていくことは大事だと思っている。

米岡課長：3つの分科会は「子ども」ということでは一つだが、つながりが難しい部分もあると思う。広くとらえていって欲しい。

瀬尾先生：学校の場合は、すでに校外であらゆる安全対策を実施している。全種類入っている。あらゆる危険を回避するために関係機関ともつながって対策を実施している。この部会とは別のつながりがすでにある。今までやってきたところとどのようにつながっていくかが今後の課題だと思う。

片岡代表：大会というのであれば、一般の方々にも来てもらうことになるのか。

林課長：「大会」というのは昨年度予算をとったときにつけた仮称であるが、ただ集まって話を聞いて帰るだけではもったいないと考えている。もう少し実のあるものにしたいと思う。

片岡代表：今まで年に何回か会議を行って、各団体で行っている取組について話すだけだった。一つステップアップして大会をするということであれば、これまでのまとめにもなり、セーフコミュニティのPRにもなるので良いと思う。

林課長：「ネットワーク」や「つながり」がキーワードとしてあると思う。それをヒントに考えていきたい。

片岡代表：様々な団体に協力してもらって実施すると良いのでは。

米岡課長：準備をしっかりとやっていかななくてはならないので、時期は2月頭くらいが良いのではないかな。

瀬尾先生：そのような日程だと学校は厳しい。

本田代表：地域のお母さんたちに周知していくのが目標か。そういうことであれば、集客も必要だと思う。どんなに良いものであっても、内輪で盛り上がるのでは意味がない。地域の人に聞いてもらえるような内容にしなければならぬ。

米岡課長：事務局でもそれが課題だと考えている。内容が良くても、来てくれる方々の顔ぶれが同じだと意味がない。どのような切り口でやれば集客が図れるのか考えていく必要がある。

本田代表：みんなが聞いてみたいという人に講演をしてもらうのが良いのでは。集客は必要。それがないと、周知ができない。

瀬尾先生：学校（PTA）でも行事をすると、聞いてもらいたい人にはなかなか来てもらえない。それを乗り越えていく工夫が必要。

平成 26 年度 第 2 回栄区セーフコミュニティ推進協議会 こども安全対策分科会

日時：平成 27 年 1 月 20 日（火） 11 時 00 分～

場所：栄区役所本館 5 号会議室

次 第

1 開 会

2 議事及び報告

(1) 事務局からの報告

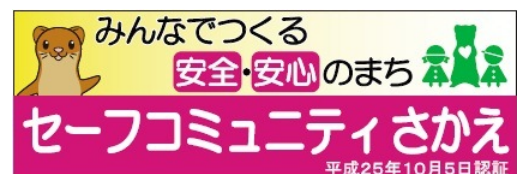
ア こどもの安全・安心を守る活動リーフレットについて

イ セーブ・キッズ・フォーラムについて

(2) 平成 26 年度こども安全対策分科会の取組について

3 その他

4 閉会



平成 26 年度第 2 回こども安全対策分科会 議事録

日時：平成 27 年 1 月 20 日（火）11 時～12 時

場所：区役所本館 5 号会議室

出席者：【委員】（小学校校長会）瀬尾先生、（PTA連絡協議会）免出代表、
 （子ども会連絡協議会）片岡代表、（はまっ子・キッズ連絡会）錦田代表、
 （保育園長連絡会）岡代表、（子育て支援団体連絡会）本田代表、
 （栄区少年補導員連絡会）灰原代表
 【事務局】林学校支援・連携担当課長、米岡子ども家庭支援課長、高森地域力推進担当係長、
 宍戸子ども家庭係長、清野、山本

2 議事及び報告

| | |
|--|---|
| <p>(1) 事務局からの報告</p> <p>ア こどもの安全・安心を守る活動リーフレットについて</p> <p>イ セーブ・キッズ・フォーラムについて</p> | <p>(事務局から説明)</p> <p>灰原代表：セーブ・キッズフォーラムの主催はどこか。</p> <p>米岡課長：栄区役所です。こども・子育て支援新制度が始まることによって、乳幼児期から学齢期まで切れ目のない子育て支援をしていくことになった。今回は学齢期に焦点をあてて、パネリストがそれぞれの立場から話をしてもらうことで、栄区の子育てを深掘りしたいと考えている。ぜひ皆さまご参加してもらいたい。</p> <p>片岡代表：フォーラムははじめての取組か。</p> <p>米岡課長：これほどバラエティに富んだ取組ははじめて。</p> <p>片岡代表：皆さまに聞いてもらって理解してもらおうということか。</p> <p>米岡課長：理解してもらおうとともに、担い手が広がっていくと良いと考えている。</p> <p>片岡代表：担い手というのは年齢関係なくということか。</p> <p>米岡課長：担い手にもいろいろな種類があるので、特に年齢は関係ない。パネリストの金子さんが話していたことだが、障害をもったこどもがバスの特定の席に座りたがるのを地域の方が理解してくださり、バスの席を譲ってくださるということがあった。それだけでも地域の子育てに参加しているということにつながると思う。</p> <p>片岡代表：この内容は障害児特定の子を対象とした内容なのか。</p> <p>米岡課長：そういうことではない。それぞれのパネリストがそれぞれの立場から地域の子育てについて話をし、それをコーディネーターの大溝先生にまとめていただく。栄区の子育ての実情を知っていただくことが目的である。</p> <p>本田代表：このようなフォーラムを行っても、来てくださる方はいつも同じ人になりがち。子育てをしている一般の人たちに聞いてもらいたいということだと思うが、周知はどのように行っているのか。学校や幼稚園には声をかけているのか。</p> |
|--|---|

| | |
|------------------------------------|---|
| | <p>林課長：PTA連絡会など、区が参加できる場所では周知をかけていく。</p> <p>本田代表：こういったイベントは来てくれる人はいつも同じ。来て欲しい人たちに来てもらうために、広く声をかけ、周知の方法は工夫した方が良い。</p> <p>片岡代表：基調講演の「地域と学校の連携」は本当に大切なことだと感じている。パネルディスカッションの中でも障害児に特化するのではなく、一般的なものを取り入れながら話してもらおうと有意義なものだと感じられる。自分たちに身近な話をしてもらえると良い。</p> <p>米岡課長：パネルディスカッションも障害に特化した話にはならない。いろいろな視点を盛り込みたいという意図である。</p> <p>灰原代表：チラシに子ども連れ可、という記載があった方が良かったのでは。それか託児なども検討した方が良かったのではないかな。そういうことで来ていただける方が増えると思う。300人となると、PTAなどある程度動員をかけないと、なかなか人が集まらないのでは。あまりに出席者が少ないともったいない。</p> <p>片岡代表：内容は良いが、お母さんたちは忙しいのでなかなか来てもらえない。</p> <p>米岡課長：動員をかけるといつもと同じメンバーになってしまう。学校に通っている子どもたちの保護者の方々に本当は来てもらいたい、現実的には難しい。</p> <p>林課長：ぜひ周囲の方々に声をかけてもらいたい。</p> <p>瀬尾代表：ネーミングを工夫するなど、少しひねりを入れると良かったのでは。とても固い印象を受ける。こどもが来たがる内容と抱き合わせで企画するなど、工夫が必要。親はなかなか来てもらえないので、逆にこどもを引き付けて親を巻き込むなど、工夫が必要。</p> <p>免出代表：工作教室を実施するなど工夫があっても良い。</p> <p>片岡代表：子ども会でも何か付属をつけて、子どもを遊ばせておける工夫があると、ファミリーで来てもらえるので人はすぐにいっぱいになる。</p> <p>灰原代表：次回このようなフォーラムを開催するときは、分科会で案を一緒に考えると良いのではないかな。</p> <p>瀬尾代表：このチラシを見ても、一般の保護者は行ってみようとは思わない。普通のお母さんが行ってみようかな、と思う工夫が必要。</p> <p>本田代表：役所もこのようなチラシを作って、どう人を集めるのか、工夫が必要である。</p> |
| <p>(2) 平成26年度子ども安全対策分科会の取組について</p> | <p>(事務局から説明)</p> <p>片岡代表：セーフコミュニティもだいぶ中味が伴ってきた印象がある。地域の人たちもセーフコミュニティという言葉が発するようになってきて、浸透してきたと思う。各団体がセーフコミュニティの意識をもって今後も取組を進めていかなくてはならないと考えている。</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <p>灰原代表：中期目標の学校アンケートについては、全ての学校を対象としているのか。</p> <p>林課長：全ての学校ではない。</p> <p>灰原代表：全ての生徒を対象としていたのか。</p> <p>林課長：全てのクラスではない。学年をピックアップしている。</p> <p>瀬尾代表：アンケートの設問が答えづらい。漠然とした設問なので、子どもには伝わりにくいのでは。子どもの言葉で書いた方が良かったのでは。</p> <p>灰原代表：この設問は家庭と家庭以外の居心地の良さを対比させているのか。</p> <p>林課長：対比させているのではなく、両方の数値を上げていきたいと考えている。はじめにWHOから認証を受けるときに出している指標である。</p> <p>片岡代表：アンケートは目的が伝わりにくく、なかなか難しい。</p> <p>灰原代表：認証をとったときに具体的に示されれば良かったと思うが、これだけ示されても我々としてはわからない。</p> <p>瀬尾代表：けがをしそうになった、という定義もよくわからない。けがの定義も不明。けがをしそうになることを防ぐというのは、運動しようという声かけと合わない。けがを回避するのであれば運動しない方がよい。</p> <p>灰原代表：男の子なら多少けがしても元気に遊んで欲しいと思う。それをけがをしないように、ということであると元気で外で遊びなさいとは言いつらい。中学の授業で柔道などやるが、それもけがをしそうになることはあると思う。</p> <p>瀬尾代表：「けがをしそうになる」となると、いくらでもそのようなことはあると思う。アンケートの意図が伝わりにくい。</p> <p>林課長：WHOが示しているセーフコミュニティというのは、数字をとってそれを成果として見ていくやり方となっている。</p> <p>瀬尾代表：最初に設問を設定したときの意図がわかりづらい。</p> |
| <p>3 その他</p> | <p>錦田代表：夜中にご近所で親の怒鳴り声が聞こえる、子どもの泣き声が聞こえる場合など、学校やはまっ子が連携して対応し、学校から児童相談所に通報してもらうケースがある。そういった場合に、児童相談所が忙しいこともあり、なかなかそこから進まないことがあり、行政との関わりがどうなっているのか不明である。</p> <p>瀬尾代表：学校からは児童相談所なりご家相なりに通報して、継続的に関わっていく。</p> <p>米岡課長：児童相談所はなかなかハードルが高い部分もあるので、気になった場合は区役所の御連絡してもらってもかまわない。命に関わらない場合は児童相談所がうまく動けないケースもあるので、こども家庭支援課に連絡してもらえると個別ケースとして関わっていくことも可能である。</p> |

| 第1回 スポーツ・余暇安全対策分科会会議録 | |
|-----------------------|---|
| 日 時 | 平成27年6月9日（月）午後7時から |
| 開催場所 | 栄区役所本館4階2号会議室 |
| 出席者 | 丸山・清水・小林・三根・西村・山上・高城・片岡・磯川・末村・茅根（敬称略） 事務局：塗師・加藤・法村 |
| 議 題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 座長の選出について 2 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) スポーツ・余暇安全分科会企画研修会「スポーツの外傷予防について」の実施について (2) 平成26年度第1回セーフコミュニティ推進協議会について (3) 各構成団体の平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画について 3 今年度のスポーツ・余暇安全対策分科会について 4 さかえっ子体操普及啓発について |
| 決定事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1 分科会メンバーとなっている団体の方にさかえっ子体操の指導者になっていただく。 2 事務局から配布されたさかえっ子体操のDVD、CDを用い、地域で活用、普及活動を進めていく。 |
| 議 事 | <ol style="list-style-type: none"> 1 座長の選出について 座長の選出を行った。 2 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) スポーツ・余暇安全分科会企画研修会「スポーツの外傷予防について」実施結果についての報告があった。 (2) 平成26年度第1回セーフコミュニティ推進協議会について 事務局から、セーフコミュニティ推進会議の位置づけ、スポーツ・余暇安全対策分科会に関する項目の報告があった。 (3) 各構成団体の平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画について各団体から報告があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 25年度は区民が様々なスポーツを体験できる機会を創出した。 ・ 26年度も引き続き、各団体が連携し区民が様々なスポーツを体験できる機会を創出することを確認。 3 今年度のスポーツ・余暇安全対策分科会について 平成25年度の実績報告及び平成26年度の事業計画について説明があった。 4 さかえっ子体操普及啓発について 平成25年度の報告及び、平成26年度の普及計画（案）について説明があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局から、分科会メンバーとなっている団体の方にさかえっ子体操の指導者になっていただきたく分科会構成団体向け指導者講習会の実施について提案があり、了承された。 ・ さかえっ子体操のDVD・CDパッケージが事務局から配布され、地域で活用、普及啓発を進めていくことが了承された。 |
| 資 料 | <ol style="list-style-type: none"> 1 スポーツ・余暇安全分科会企画研修会「スポーツの外傷予防について」の実施 2 平成26年度第1回セーフコミュニティ推進協議会について 3 各構成団体の平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画について 4 今年度のスポーツ・余暇安全対策分科会について 5 さかえっ子体操普及啓発について |

| 第2回 スポーツ・余暇安全対策分科会会議録 | |
|-----------------------|---|
| 日 時 | 平成26年11月17日（月）午後7時から |
| 開催場所 | 栄区役所本館4階2号会議室 |
| 出席者 | 丸山・清水・小林・三根・西村・高城・片岡・高野・磯川・末村・茅根（敬称略） 事務局：塗師・加藤・法村 |
| 議 題 | 1 分科会設置要綱について 2 平成26年度第1、第2四半期の振り返りについて 3 下半期の予定について |
| 決定事項 | 特になし。 |
| 議 事 | 1 分科会設置要綱について 委員の任期について確認した。また、改めて座長を選出することとし、丸山委員が座長に選出された。 2 平成26年度第1、第2四半期の振り返りについて (1) 事務局から 取組内容、進捗状況について説明があった。 (2) 各団体から 栄区体育協会、栄区スポーツ推進委員連絡協議会、青少年指導員、さわやかスポーツ普及委員会及びさかえスポーツくらぶから各団体の取組みについて報告があった。 3 下半期の予定について (1) 事務局から オリンピック選手による講演、陸上教室及び第2回さかえっ子体操指導者講習会の実施予定について説明があった。 (2) 各団体から さかえスポーツくらぶから、下半期のこども向けの教室の開催予定について説明があった。 4 その他 けが予防の啓発について意見交換を行った。また、救急搬送件数の減少のために搬送記録の内容を分析する必要があるとの意見があがり、次回、事務局から分析結果を示すこととなった。 |
| 資 料 ・ 特記事項 | 1 資料 (1) 栄区セーフコミュニティ推進協議会スポーツ・余暇安全対策分科会運営要綱 (2) 中期目標・平成26年度の取組内容・指標の進捗管理について (3) 平成26年度栄区青少年指導員協議会 各地区の行事予定 (4) 平成26年度さわやかスポーツ普及事業報告書 (5) ふれあい交流会（案） (6) さかえっ子体操指導者講習会案内 2 特記事項 次回開催候補日は平成27年2月23日（月）または26日（木）。 |

| 第3回 スポーツ・余暇安全対策分科会会議録 | |
|-----------------------|--|
| 日 時 | 平成27年2月26日（木）午後7時から |
| 開催場所 | 栄区役所本館4階2号会議室 |
| 出席者 | 丸山・清水・小林・三根・西村・山上・高城・片岡・磯川・末村・茅根（敬称略） 事務局：塗師・加藤・法村 |
| 議 題 | 1 傷害サーベイランス分科会報告について 2 各構成団体からの報告について 3 各種イベント実施報告について 4 アンケート実施結果について 5 救急搬送記録について 6 来年度の研修会内容について |
| 決定事項 | 特になし。 |
| 議 事 | 1 傷害サーベイランス分科会報告について 事務局から報告があった。これについて意見交換を行った。 ・ てくてくウォーク栄は「すべての区民を対象とするスポーツの推進」に入れるべき。 ・ ウォーキングについて、歩き過ぎてしまうことのないよう周知も必要。 2 各構成団体からの報告について 各団体から26年度の事業の途中経過報告があった。 3 各種イベント実施報告について 事務局から、「聞こう！学ぼう！かけっこ教室」及び「さかえっ子体操指導者講習会」の報告があった。 4 アンケート実施結果について 事務局から、栄区民アンケート及び学校アンケートの結果報告があった。 5 救急搬送記録について 事務局から、救急搬送記録の程度別の集計数及び受傷分類別の集計結果について報告があった。過去3年間で搬送件数は増加しており、中等症、重症も増加していたことが分かった。 6 来年度の研修会内容について 内容はけが予防を中心とした講義又は実技で検討することとし、講師との調整は事務局で行うこととなった。 |
| 資 料 | 1 傷害サーベイランス分科会報告について 2 各構成団体からの報告について 3 各種イベント実施報告について 4 アンケート実施結果について 5 救急搬送記録について 6 来年度の研修会内容について |

議 事 録

会議名 : 栄区交通安全対策協議会・幹事会
日 時 : 平成26年 4月 22日 (火曜日) 10時00分～10時40分
場 所 : 栄区役所 本館4階 第2号会議室
出欠者 : ○出席 : (敬称省略)・森 (栄交通安全協会副会長) ・加藤 (栄交通安全協会理事)
・関事務長 (栄交通安全協会) ・田中貞代 (母の会連絡会長)
・竹谷 (シルバー連絡協議会長) ・中込 (横浜建設業協会栄区会副会長)
・曾根 (栄警察署交通課長) ・竹鼻係長 (栄警察署交通課総務係)
・三善 (栄消防署庶務課長)
・長谷川 (栄土木事務所副所長) ・三輪 (栄土木事務所管理係長)
事務局 : (栄区地域振興課)・塗師課長、・吉田係長、・塩島、・塚田
×欠席 : ・金子 (安全管理者会副会長) ・廣田 (栄警察署交通総務係)

◆概 要 【結果】

- 議題 (1) 報告案件
- ア 26年度 春の全国交通安全運動・フェスティバル : 確認した。
 - イ 交通事故死ゼロ・街頭キャンペーン : 確認した。
- (2) 議事案件
- ア 25年度 栄区 功労者の候補者審査 : 提示案を承認した。
(個人4名、4団体を表彰する。但し、設立年を確認する)
 - イ 26年度 総会開催について資料説明 : 開催は承認。
(但し、各自が資料チェックし質問意見を事務局へ連絡する旨を確認)
 - ウ 自転車マナーアップ・街頭キャンペーン : 5月1日実施を承認。
 - エ 二輪車交通事故防止・街頭キャンペーン : 6月5日10時～実施を承認。
 - オ 夏の交通事故防止キャンペーン : 7月11日16時～実施を承認。
 - カ 交通事故発生状況について警察署から資料提示し説明 : 確認した。

◆内 容 (敬称省略)

- 事務局 塗師課長から挨拶 : ・協議会活動に感謝。・セーフコミュニティ関係の取組に期待。
・皆様から積極的な意見をお願い。
- 新任の挨拶 : ・土木事務所の長谷川氏、三輪氏。 ・消防署の三善氏 ・地域振興課の塚田
・区政推進課セーフコミュニティ担当の中村 (欠席した上野紹介)
- 進行、説明 : 吉田係長
 - (1) 報告 ア、イ・・・質問なし。
 - (2) 議事 ア 表彰候補者の審査
(吉田) 要綱の3年以上継続を確認したい。
(田中) 確認したい。

裏面あり

- (関) 地域の方から充実した活動による推薦であり承諾したい。
(田中) 同感であり、活動実績は確かであり、幹事会も推薦したい。
(吉田) 要綱では、協議会長が認める者の表現があり、3年以上活動歴が無くても表彰は可能ですが。
(全員) 提案どおり、幹事会では承認とする。
(関) 一応、1団体の設立年を調べて連絡する。

【当日連絡あり：新善交通株式会社 昭和45年9月1日設立】

イ 総会開催について

- (吉田) 今日の資料をお持ち帰り、意見等は事務局へ後日、連絡を下さい。
(全員) 了解した。

ウ 5月1日の街頭キャンペーンについて

- (吉田) 昨年度の実施した通り、同様をお願いしたい。 30名の協力。 現地に5分前集合、アースプラザ階段した掲示板の所。
(関) 了解しました。協力者へ伝えます。

エ 二輪車交通事故防止・街頭キャンペーンについて

- (吉田) 皆様ご都合から、6月5日10時～、本郷台駅前にて予定したい。
(全員) 了解です。

オ 夏の交通事故防止キャンペーンについて

- (吉田) 皆様ご都合で、7月11日16時～大船駅笠間口にて予定したい。
(関) 啓発物品配布以外は？ イベントは難しいか？ テント1幕設置？
(長谷川) 土木事務所の許可が可能か？過去の実績等を調べて連絡したい。
(吉田) 事務局で受けて、関さんへ連絡し、検討願いたい。
(関) 了解しました。関係者で検討します。

カ その他

- (塗師) 区連会で交通事故が増えていると聞いたが実態は？
(曾根) (警察のデータ資料を提示) 資料3月末で2の表を見てください。
・高齢者の増があり、加害者、被害者の両方が特徴です。・日中10時～夕方の発生が4割。・管轄内で2月10件、3月20件が増、4月は12件。年度は5件ほど減。
・キャンペーン中の期間は、神奈川県で1件発生し残念ながらゼロ達成はできませんでした。秋は、達成したく、ご協力をお願いします。
(吉田) 次回の幹事会は、皆様ご都合から、9月5日(金)10時～、同会議室で決めたい。
(全員) 了解しました。予定します。

以上

.....

議 事 録

会議名 : 栄区交通安全対策協議会・幹事会
日 時 : 平成26年 9月 5日(金曜日) 10時00分～11時
場 所 : 栄区役所 本館4階 第2号会議室
出欠者 : ○出席:(敬称省略)・森(栄交通安全協会副会長) ・加藤(栄交通安全協会理事)
・関事務長(栄交通安全協会) ・田中貞代(母の会連絡会長)
・竹谷(シルバー連絡協議会長) ・中込(横浜建設業協会栄区会副会長)
・金子(安全管理者会副会長)代理の山田相談役
・竹鼻係長(栄警察署交通課総務係)・廣田(栄警察署交通総務係)
・三善(栄消防署庶務課長) ・三輪(栄土木事務所管理係長)
事務局:(栄区地域振興課)・吉田係長、・塩島、・塚田
×欠席:・曾根(栄警察署交通課長)・長谷川(栄土木事務所副所長)・塗師課長
.....

◆概要 【結果】 ※添付資料を参照

○挨拶:・安協の森克己副会長から新任挨拶。・安協の金子副会長代理で山田相談役が出席。
議題

○報告案件(吉田係長から説明)

- 1 二輪車交通事故防止強化月間・暴走族追放強化月間街頭キャンペーンの実施結果:確認した。
- 2 夏の交通事故防止運動街頭キャンペーンの実施結果:確認した。

○議事案件(吉田係長から説明)

- 1 平成26年度「秋の全国交通安全運動」キャンペーン:提示案を承認した。
(但し、主催者挨拶を区長に代わり森副会長に調整して行く)
- 2 「交通事故死ゼロを目指す日」キャンペーン:提示案を承認した。
(なお、現地のガリバー店へ駐車場利用や開催について区役所から依頼する旨)
- 3 違法駐車及び放置自転車・バイククリーンキャンペーン:提示案を承認した。
(詳細:参加者32～34名を確認。竹谷会長から追加依頼は対応するとの事)
- 4 その他
 - (1) 交通安全十五夜キャンペーン:確認し、協力して行く事とした。
 - (2) シルバードライビングスクール:確認。シルバークラブが協力するとの事。
◇スマート・ストリート教育技法による交通安全教室開催(企画案):警察、安協の協力→・点灯君体験・反射材体験・飲酒ゴーグル体験・自転車教室等について調整して行く。

○次回・幹事会:11月5日(水)10時～、3階の第5会議室で開催を確認した。

◆セーフコミュニティに関する件:近況報告など(吉田係長) ・座長を「森 克己」氏に決定。
.....

以上

議 事 録

会議名 : 栄区交通安全対策協議会・幹事会

日 時 : 平成26年 11月 5日 (水曜日) 10時00分～11時20分

場 所 : 栄区役所 本館3階 第5号会議室

出欠者 : ○出席：(敬称省略)

- ・森 (栄交通安全協会副会長) ・加藤 (栄交通安全協会理事) ・関事務長 (栄交通安全協会)
 - ・田中 (母の会連絡会長) ・中込 (横浜建設業協会栄区会副会長)
 - ・金子 (安全管理者会副会長) ・小野事務局担当
 - ・曾根 (栄警察署交通課長) ・竹鼻係長 (栄警察署交通課総務係) ・三善 (栄消防署庶務課長)
 - ・長谷川 (栄土木事務所副所長) ・三輪 (栄土木事務所管理係長)
- 事務局：(栄区地域振興課) ・吉田係長、・塩島、・塚田

×欠席：・竹谷 (シルバー連絡協議会長) ・廣田 (栄警察署交通総務係) ・塗師課長

◆概要 【結果】 ※添付資料を参照

議題 ※敬称省略

○報告案件 (吉田係長から説明)・・・以下について確認した。

- 1 交通安全十五夜キャンペーンについて
- 2 平成26年度「秋の全国交通安全運動」街頭キャンペーンについて
- 3 本郷台駅自転車等放置防止クリーンキャンペーンについて
- 4 「交通事故死ゼロを目指す日」街頭キャンペーンについて
(曾根：この日は、2件事故あり、ゼロにならなかった残念)
- 5 違法駐車・放置自転車・バイククリーンキャンペーンについて

○議事案件 (吉田係長から説明)・・・以下の議案を決定した。

- 1 スケアード・ストレート教育技法による交通安全教室開催について
(田中：受付は母の会で担当します) (加藤：磯崎会長は別件あるが参加します)
- 2 交通死亡事故抑止の特別交通安全運動の実施について
(関：実施時の手持ち看板を準備している) (田中：参加を事務局へ連絡します)
(竹鼻：持参した資料を説明、特に子供のキックボードで死亡事故あり周知したい)
- 3 年末の交通事故防止運動(飲酒運転根絶強化月間)街頭キャンペーンについて
(協議した結果：雨天順延日は特別運動と重複しており、雨天でも駅改札口で実施を決定)
- 4 栄区交通安全功労者(団体)表彰要綱に基づく、功労者推薦についてについて
(協議した結果：現行の総会時に前年度名で表彰する年度名称は、変更しない事を決定)
(関：安全協会の表彰対象者との重複について調整してほしい。←吉田：了解しました)
- 5 「春の全国交通安全運動に伴うキャンペーン」の検討について
(協議した結果：①引き続き、地域開催を順次進める。②来年度は小菅ヶ谷連合とする。
③来年度は、5月16日とする。④模擬店など地域で負担なることは、止める。⑤警察で音楽隊などを予約する。⑥場所や催し内容は、後日決めて行く。) 裏面あり

6 その他 ・交通安全クリスマスキャンペーンについて（田中会長から説明）

○次回・幹事会：2月4日（水）10時～、で開催を確認した。（3階の第5会議室を予約済）

以上

議 事 録

会議名 : 栄区交通安全対策協議会・幹事会
日 時 : 平成27年 2月 4日 (水曜日) 10時00分～11時30分
場 所 : 栄区役所 本館3階 第5号会議室
出欠者 : ○出席：幹事、全員出席。・参照：幹事名簿+廣田 (栄警察署交通総務係)
事務局：(栄区地域振興課)・塗師課長・吉田係長・塩島・塚田

◆概要 **【結果】 ※添付資料を参照**

議題 ※敬称省略

○報告案件 (吉田係長から説明)・・・以下について確認した。

- 1 スケアード・ストレート教育技法による交通安全教室開催について
- 2 交通死亡事故抑止の特別交通安全運動の実施について
- 3 年末の交通事故防止運動(飲酒運転根絶強化月間)街頭キャンペーンについて
- 4 飲酒運転 大根 絶キャンペーンについて
- 5 交通安全 クリスマスキャンペーンについて
- 6 交通安全 節分 キャンペーンについて
- 7 栄区交通安全功労者(団体)表彰要綱に基づく、功労者推薦について
(現在、2件の自治会長から受理した)
- 8 その他：無し。

○議事案件 (吉田係長から説明)・・・以下の議案を議論した。

1 「交通事故死ゼロを目指す日」啓発キャンペーンについて・・・決定。

(意見)・関幹事：今年は、5月20日を予定している。(事務局：その日に変更します)

◆日時・場所：5月20日 (水曜日) 10時～11時 ・環状4号線 公田交差点

◆内容： ・道路利用者(歩行者、自転車利用者、車両運転者(信号待ち中))に対し、
啓発チラシ・物品を配布して呼びかける。

・「本日は交通事故死ゼロを目指す日」の看板を道路通行車両に向け掲出して
実施主旨を呼びかける。

2 「春の全国交通安全運動に伴うキャンペーン」の検討について

前回11月幹事会の内容から、今後、詳細を詰めて、4月幹事会で承認し、進める事とした。

(意見)・関幹事：15、16日は、豊田連合の研修会で、対応が難しい。

・竹鼻幹事：9、10日は、運動期間外であるが調整は可能。

・事務局：今日の意見を踏まえ、

① 日時を5月9日(土)か10日(日)で場所の調整で決めて行く。

② 場所は、「小菅ヶ谷連合町内会」内で「西本郷小学校」などを日と調整する。

③ 内容は、開催日により個別調整して決めて行く。(参考：裏面に検討内容)

3 関係団体の開催キャンペーン等への協力について・・・協力を決定。

・母の会の田中幹事から(1)節分キャンペーン(3)三世代交流大会を説明。確認した。

・(2)本郷台駅自転車等放置防止キャンペーンを確認した。

裏面あり

2 春のキャンペーン検討内容 【春の交通安全

フェスティバル 内容 (案)

- ・消防 : 「AED」 取扱い実演は、可能。(実施時間は調整して行く)
- ・安協 : 自転車教室は、16日は不可。9、10日は可能。
- ・事務局 : 地域団体の催しは、地元と調整して行く。
- ・警察 : トラビック演出、音楽隊・ドリル演奏は、16日は不可。9、10日は検討する。
- ・安協 : 運転シミュレーターなど開催日と調整して行く。
- ・警察 : 江ノ電バスなど大型車搬入など検討して行きたい。
- ・事務局 : スケアードストレートを含むことは？ 児童への影響は？
 - ・関幹事 : 中学生に機会をもちたい。
 - ・警察 : 保護者同伴であれば児童も影響少ない。別の場所での実施を検討したい。
- ・雨天対応 : 雨天決行で進める。(警察 : 実施したい) (事務局 : 体育館等実施を検討する)

.....
○その他 ・金子幹事 : 欠席する場合は、運転者管理者会事務局で代理出席対応したい。
(事務局 : 了解しました)

○次回・幹事会 : 4月22日 (水) 10時～、を予定した。(場所は調整して連絡する)

○総会の予定 : 5月26日 (火) 13:30～とした。 以上

-
・曾根交通課長 : 交通事故状況を説明。高齢者対策を検討して行きたい。

【意見交換】

- ・竹谷幹事 : 高齢者・自分たちの取り組みを進めたい。①リーダー40人に振込詐欺などの研修会を進めたい。②交通安全シルバーリーダー120人が研修したが、活動されていない。洗い直し、アンケートとして、キャンペーン参加して行く、仕組みをつくりたい。
 - ・データ処理事務などの個人情報の勉強会も区にお願いしており、着実に進めて行く。
- ・田中幹事 : 私も講習会に参加したが、区の中でも講習会(トラビック体操含め)を開催してほしい。
- ・塗師課長 : 事故の近況から、皆さんが集まる機会に防犯も含め、やって行きたい。セーフコミュニティの論理的対応から、課題→対策→効果と進める事で、再認証には大事な視点。
 - ・全席シートベルトのキャンペーを進めたい。
- ・竹谷幹事 : 運転免許証の返納を推進したい。メリットがあると良いが。
- ・廣田部長 : 優待券など自治体により異なる。安全教育を活発に進めたい。日時・場所など調整を。
- ・加藤幹事 : 豊田地区は交通アクセスが悪く、川向うの感覚。湯快爽快の神奈中とマイクロバス活用を進めた。(廣田部長 : どこでも、警察も出かけて安全指導をしている)
- ・関幹事 : 以前、江ノ電バス営業所で講習会を実施し効果があると感じた。バス中で運転者アナウンスが気になる。高齢者が停まる前に立ち危険。早く降りて迷惑かけたく無い気持ちか。
- ・田中幹事 : 死亡事故原因でも、横断歩道以外での横断や信号無視の高齢者行為に問題。(講習会の意味の重要性を感じる)

以上

平成 26 年度第 1 回「栄区子ども・家庭支援相談事業関係機関関連連絡協議会」

「栄区児童虐待防止連絡会」

「栄区セーフコミュニティ推進協議会暴力・虐待予防対策分科会」記録

日時 平成 26 年 6 月 23 日（月）15 時～17 時

栄区役所新館 4 階 8・9 号会議室

1 あいさつ 栄福祉保健センター長 小山 実

議員提案で横浜市子どもを虐待から守る条例が 6 月の横浜市会本会議で可決され、11 月から施行されることになった。この条例については虐待予防の観点から規定がいろいろなされている。特に市民の責務については子どもおよび保護者を見守る、地域社会から孤立することのないように努めるといった規定がなされている。これは地域の関係者のみんなが連携して見守りを行なう。気になる親子がいた場合、声をかけたり相談先につなげるような取り組みをさらに進めることが求められていることだと思われる。

今年の 1 月、こども青少年局より「横浜市子ども虐待会議における連携強化指針」が出された。今まで各区の裁量で取り組んできたことが 18 区共通化を図った上で組織的に取り組んでいこうということで出された指針。この指針についても区と児童相談所の連携はもちろんのこと、子どもと接点を持つ関係機関が身近な地域の中でつながって共に見守っていこうというような内容となっている。

昨年 10 月、栄区は WHO のセーフコミュニティの認証を受けた。この認証を受けて最初の年度に当たるので、さらに児童虐待防止についての取組がより充実するように進めていきたい。

併せて 18 区で展開している地域福祉保健計画の第 3 期が平成 28 年度から始まる。セーフコミュニティである児童虐待防止の具体的な取り組み、行動計画に載っている対策について、どのように具体的な取り組みとして展開していくか、時期の地域福祉計画に盛り込んでいきたいと考えているので、みなさまのいろいろなご意見をいただきたい。

児童虐待防止を巡る情勢は急激に変わっているが、これに対して適切な対応をしながら安心・安全な栄区の街作りに取り組んでいきたい。

2 本会議の趣旨説明 瀬戸晶子係長

(1) 要保護児童対策地域協議会（児童虐待防止連絡会）について（資料①の 1）

(2) 栄区セーフコミュニティ推進協議会・虐待予防対策分科会について（資料①の 2）

上記 2 つの会議を全体会として行っているが、今後進め方については検討していきたい。

3 議題 瀬戸晶子係長

(1) 横浜市子ども虐待対応における連携強化指針について(資料②)

18区が同じ体制で組織だっ行っていくというのがこの指針に基づいたものである。

今まで区の代表者レベルで会議を行ってきたが、今後はより実務を担う構成の会議になるよう、各地区ごとに顔の見える関係を作っていきたいということで、地域の中での関係者同士が会議をしていく。

(2) 会議の平成26年度の進め方について(資料③)

虐待防止連絡会、セーフコミュニティ推進協議会それぞれの進め方について説明。

<質問受付>

特になし

4 報告

(1) 栄区子ども支援課より報告

ア 平成25年度栄区子ども・家庭支援相談事業状況報告 福岡雅和教育相談員
・資料④の説明

イ 平成26年度栄区子ども家庭支援課子ども家庭支援事業について

阿部礼以重保健師

・資料⑤の説明

明朝体は市全体の事業、ゴシック体は栄区独自の事業

(2) 南部児童相談所より報告 吉田真樹係長

ア 平成25年度横浜市児童相談所新規把握件数について

今年度は事務局から外れたが、引き続き参加していきたい。

・資料⑥の説明

新規件数が初めて1千件を超え、過去最高となった。

イ 南部児童相談所概要

・資料⑦の説明

ウ 南部児童相談所研修について

・資料⑧の説明

希望者には企画から実施まで相談を受けるので活用を

<質問受付>

特になし

5 意見交換

- ・参加者より各機関の組織、活動状況についての紹介があった。

- ・山本れん子(栄共済病院外来師長)

小児科、救急外来で虐待の可能性のある母親について今年度も1件警察に通報したケースがあった。小児科外来で不安を抱える母親や、当院から他院に紹介するケースでも虐待の情報があれば流し、円滑にいくように心がけている。

院内の中でもすぐに通報できる体制を作っている。親と話している中で情報を聞くように心がけている。看護師も360人以上いる。病院という場だが女性が働く場という立場で何かやっていけることがあったらと思い、課題を見つけ出している現状である。

- ・石田 恒(栄共済病院ケースワーカー)

救急体制が医師1名増員になり、4名で受けている。頭部外傷の小児患者を診ることが多く、その中で通告している。今年度から病院の工事。3年後には建替え予定。新しい建物になったら出産を再開できたらと考えている。

- ・佐藤 敦(専任代表 西本郷中学校主幹教諭)

虐待に関しては学校も認知をする可能性が高い。「見逃しはアウト。空振りもOK」という合言葉に基づき、いろんな場面で虐待ではないかと思われるようなところが見受けられた場合は、それぞれの通告先に専任教諭を通して通告できるよう研修をかさねている。

- ・萩原由美子(小学校養護教諭代表 西本郷小学校)

以前は児相をはじめ関係機関に管理職を通して相談していたが、最近は地域や警察から連絡がある。地域の見守り体制ができてきているように思う。学校では小中ブロックで同じSCが配置になり、SCを通して子家相、関係機関などに相談できるようになった。

- ・丸山 礼子(中学校養護教諭代表 飯島中学校)

家庭の様子は地域の人にはよく見える。学校は生活に関してはわかりにくい。悩んでいる生徒は保健室によく来る。家庭の様子を聞くと、親から殴られたということを聞いたりが、その親も殴られて育てていることが多い。子どもの育て方はやり方によっては虐待になったりもする。区ではいろいろな資料を使ってアドバイスをしてくれるようだが、親にもいいイメージを持って基本的な子どもに対する指導ができるよう、いいやり方を伝えてほしい。

・免出 涼子 (桂台小学校PTA会長)

区P連では虐待に関して話し合ったり講座を開いたりしてはしていない。この場で初めて虐待のケースの多さに驚いた。市PTA連絡協議会に出席し、いろいろな地域の話を知っているが、ただの保護者にはできることは限られているというところにとどまってしまう。この会議に出席したのを機に自分の中でも考えたり単Pや区Pに少し話を持っていけたらと思う。

・片岡喜久江(栄区こども会連絡協議会会長)

こども会のいろいろなイベントに参加するのは健常者。地域の人間としては気配りしたり、見守りしたり、自分たちのできることをやっていきたい。件数が増えているがこれをどのようにすれば少なくできるのか考えていくのも、この会の役割ではないかと思う。

・岡 正子 (桂台保育園園長)

乳児、幼児に関して園児はもとより地域の親子も見守るようにしている。園の方にきてもらえるような働きかけもしている。先週、区役所で合同育児講座。地域の0歳児が25組参加し、タッチケア、ベビーマッサージを行った。保護者に寄り添うことを心がけ、保育士がいつもいるから来てくださいというアピールをしながら子育て不安を取り除けるような活動をしている。

・安藤 宗博 (小菅ヶ谷幼稚園園長)

初めて参加し件数の多さに驚いている。プール活動で子どもを裸にする機会が多いので、先生たちには傷や痣がないかよく見ておくように言っている。母親とは話をすることが多いが父親の顔が見えにくい。聞いた話をどこまで幼稚園から連絡会、区役所に相談していいのか迷う。現状では子ども、母親の様子を見るということで行っている。

・長瀬 潔(栄区民生委員・児童委員協議会会長)

栄区では主に主任児童委員が「赤ちゃんこんにちは」制度を担当している。生まれて4か月以内は母親が保育ノイローゼになることがある。主任児童委員は子育て体験者。自分の経験を通して話が聞けるのでいいアドバイザーではないかと思う。幼・保・小・中を訪問しながら子どもの様子を聞き取っている。親は「指導」というが、傍から見ると「指導」を逸脱しているようなケースも見られる。児相にも何度か行き話も聞いている。プール活動、身体測定のときには子どもをよく見ている。保育園の母は時間的な余裕がなく、ゆったりした子育てができていない。虐待問題には経済的問題もあると思う。悲しい事件をなくすためにもみんなが創意工夫して解決していかななくては

ならないと思っている。

・田中 伸一(保健活動推進委員会会長)

会議に出れば出るほど児童虐待の難しさがわかる。自殺予防の関係についてはハートフルサポーターという形で勉強しているが、児童虐待についてはまだ取り組んでいない。根っこはどちらも同じではないかと思う。地域全体で児童虐待に取り組む体制ができていないことが課題。より多くの人児童虐待について関心を持つという体制作りが大事だと思う。

・戸村 毅(よこはま港南地域療育センター副センター長)

開所して今年で2年目になる。利用している人の中には虐待リスクの人も多くいる。発達障害の特徴ゆえに両親が子育てがうまくいかない。かんしゃくを起こす、言うことを聞かないなどで叩いてしまうことが多い。そのような両親が、幼少期に自分も虐待を受けていたという連鎖も療育の中で感じられる。子どもたちが安心して生活できるように地域のみなさまと一緒に取り組んでいきたい。

・宮崎 良子(主任児童委員)

主任児童委員は「こんにちは赤ちゃん訪問」をやっているものが多い。訪問して何か心配がある家庭があれば区役所に相談したり、地域の育児教室の手伝いなどを行っている。0歳から18歳を担当する民生委員で7つの地域に2名ずついる。民生委員と各地区の小・中学校を結ぶ役割をしている。学校が苦手な子どもたちの居場所の提供として「フリースペースさかえ」を月に2回やっている。

・小西 淳一(青少年指導員協議会会長)

青少年の健全育成を目的として活動している。子どもたちとキャンプ、陶芸教室などの活動を行っている。障害を持った子どもたちも来ることがあるが、保護者、先生がついてくるので虐待、いじめなどは目にしにくい。

・古川 (栄区子育て支援拠点にこりんく)

子育て拠点は未就学の児童が遊びにくる施設。3歳までの子どもが主に来ている。親子が遊んでいるところに寄り添いながら気軽に相談してもらおう場所になっている。泣き声通報されてしまった例や、発達の問題で母が悩んで専門機関にはつながついていても自分の中でもやもやした気持ちを身近なスタッフに相談したり、自信をなくしているときに相談できる場所になっていると思っている。

・稲田 廣 (スクールソーシャルワーカー)

小・中学校で課題を持つ家庭の家庭環境改善に向けて関係機関と連絡を取りながらケース会議等を開き、少しでも役に立てるよう仕事をしている。学校で困っているのは多くが虐待ランクD、Eの子どもたち。具体的にどういう形で学校やSSWが入り込んでいくか難しい状況にある。現在、自治会長という立場であるが、地域では高齢者の問題が圧倒的に多い。行政からは課ごとにいろいろなことを言う。窓口をどう一本化し各課が連携していくのかというもっと大きなビジョン、地域をどうするのかということを考えていく必要があるのではないかと。虐待についても同じように自分の身の回りの子どもたちのことを気にかけていきたいと思う。

・澤柳 寛 (南部学校教育事務所主任指導主事)

学校から相談があった場合、学校担当が受ける。校長との話し合いの中で学校だけでは難しいという場合、SSWと連携を取りながら学校への支援を行っている。学校が認知した虐待について通告をする、あるいは通告しながらも保護には至らないケースについては民生委員、児童委員など、さまざまな関係機関と連携を取りながら見守りを続けていると聞いている。学校ができること、地域に任せざるを得ないことがあるので、引き続き学校支援をお願いしたい。

・志田 朋子 (中央児童相談所虐待対応地域連携課担当課長)

横浜市には4つの児童相談所。23年に虐待対応について検討されたときにできた課。研修会をやりながら地域の人たちの虐待に対する意識や理解を高めてもらっている。24時間のホットラインは休日、夜間の対応の部署になっている。ホットラインへの通報はどんどん増えている。暑くなると泣き声通報が増える。専門員に直接現地に行ってもらい、声をかけている。会えないときはチラシを入れてくる。個別ケース検討会で個別に相談している。問合せしてもらえれば答えられる範囲で対応している。警察に非行傾向の子が保護され、家庭に連絡すると引き取りを拒否するケースで一晩保護することがある。数日保護しても最終的には自宅に帰ることが多い。保護所は学校にも通えず友だちとも連絡できない。最終的には地域で生活していく子どもたちなので、保護した後どうするか。施設、里親に引き取られる子どもは数少ない。どうやって地域の中で新しい関係をうまく築きながら生活できるかということは地域のみなさまの協力なくしてはできない。

・林 千賀 (学校支援・連携課長)

これだけの体制がとられていながら虐待件数はすごい伸び率であることに驚くとともに問題の深刻さを改めて感じた。放課後3事業をやっている。専門家がいないうちで放

課後の時間を子どもたちが過ごしている。虐待という視点も持ってみていかなくては
いけないことを感じた。

・守屋 龍一（福祉保健課長）

セーフコミュニティの取組の中で自殺予防対策を担当している。栄区は年間 20～30 人
が自殺。自殺に至る原因、分析を行って科学的な根拠に基づいて対策を行う。自殺予
防にはゲートキーパーという言葉が使われるが栄区ではハートフルサポーター。基本
的な講習を受けてもらい身の周りにそういう人がいた場合は気づき、関係機関につな
げるということをやっている。現在 900 人ほど講習を受けているが、これからいかに
裾野を広げていくかということを考えている。虐待についても地域の支えがあつての
取組みなのではないかと思う。セーフコミュニティの活動も連携して一緒にやってい
きたい。

・米岡由美恵（こども家庭支援課長）

栄区はみんなが一生懸命やっていることを感じる。地域の人たちも大変な中でお願い
したことをやっていたらいいのかなと思う。自殺の話があつたが心中も虐待の一つ。
そういうところからもつながるのではないかな。今年はセーフコミュニティの分科会
の中で話を深めていかれば良いと思う。

<各機関への質問受付>

特になし

補足

・高橋 秀明（医務担当部長）

虐待があつた場合、何らかの形で体に残る。体重の増加が悪い、痣などの後が残る。
去年は絞扼痕があつた事例があつた。体に残ったものは虐待の証拠になるので、痣な
どがあつた場合は、医療機関につなげてもらい、医師の目から見た場合はどうなのか
という相談をしてもらいたい。医療が関わるような虐待は犯罪になることがあるので
そのような証拠を残し、法的な裁きを受けさせる必要もある。

3 おわりに

栄福祉保健センター部長 多田洋幸

現実にはいくつかの事件が起きている。話を聞くとハッとしますが、数字で見るとピンとこ
ない。栄区でも養育支援台帳には 200 件ほど載っている。実際にやけどのある写真を見たが
百聞は一見に如かずと思った。区役所が窓口になりどんどん相談を受けていかなくては

けないと思っている。どこに相談できるかのPRをしていきたい。

今日は顔の見える関係ができたので今後も連携を取り、区民にも事実を知ってもらい相談、報告をしてもらうようにしていきたい。

南部児童相談所長 岡 聡志

栄区はセーフコミュニティということで構成メンバーも地域の方が多い。元々栄区はセーフコミュニティの風土があったのではないかと。虐待の数字は市民の認知度が上がり、問題が顕在化したことによって増えているという見方もできる。顕在化は対応ができるという意味では重要。児相は起きたことに対応するが、予防、再発防止は行政だけでは対応できない。一般の人たちの普通の感覚が大事。

連携で大事なそれぞれの機関の機能を理解すること。それぞれが何をしているのかアピールしていくのも大事なことではないか。児相としても丁寧な対応と説明に努めたい。

4 連絡

：* 次回栄区児童虐待防止連絡会

日時：平成 27 年 2 月 23 日（月） 15 時～17 時

場所：区役所 4 階 8・9 号会議室

平成 26 年度第 2 回

「栄区セーフコミュニティ推進協議会 暴力・虐待予防対策分科会」記録

日時：平成 27 年 1 月 28 日（水）区役所 6 号会議室

出席者：宮崎委員、北野委員（主任児童委員）、酒井委員（地域子育て支援拠点）、塩島委員（区社協）

事務局：瀬戸、阿部、池田、新倉（こども家庭支援課）

- 1 「さかえっ子の笑顔ひろげ隊事業」の 3 年間の振り返り（概要説明：事務局）
 - ・地域ごとの交流会はよかった。互いのよい刺激になった。資料を各地域で活かすまでいっていない状態なので、活かす取組がしたい。（今はフィードバックする場がない）
 - ・主任児童委員になって 3 年が経ち、地域子育て支援拠点との関係も深くなった。子育て支援連絡会とのつなぎ目になることができればと思う。地区の地域福祉保健計画分科会の会議で説明することは可能。こども分科会は各地域にあるのか。区社協を含め、把握している活動団体を詳細につかむ必要があると思う。
 - ・今後は身近な地域でどう広げていくかが課題。

- 2 次年度に向けて
 - ・小菅ヶ谷地区社協の活動も含めて、各地域の活動共有があるとよい（実際に活動をしている人の交流会があるとよい）
 - ・セーフコミュニティの一分科会として位置付けることもあり得る
 - ・見守っていく風土づくりをすすめる
 - ・地域で子育て支援を行っている人の交流会
 - ・各地域の課題や活動の現状を知る
 - ・主任児童委員：やさしい地域づくりの意味をもってもらおう。（活動の意識づくり）
 - ・子育て家庭の理解・見守る必要性について、地域への啓発をしたい
 - ・地域の活動交流会（PHN より困った事例・活動内容）
 - ・学校ごとに地域の人々との交流事業「まち懇」「まちづくり」の会等あり（年 1～2 回）。テーマは「こどもを見守る」「道路・安全・保安」など。

※連合と学区が違うため、課題あり。

【決定事項】

目的：見守りの地域づくりを進める、見守りの必要性についての理解者を増やす

内容：子育ての現状を知る、取組を知ろう（各地区の状況を把握する）

対象者：サポーター養成講座を受けた人、活動者、関係機関、役員、興味のある方

※こどもの分科会があれば相談しつつやる

※やれる地区からやっていく

3 情報提供

(トピックス)「本三(本郷第三地区)未来を考える」80人程集まった

4 セーフコミュニティとしての位置づけについて

今後、「さかえっ子の笑顔ひろげ隊事業」事務局をセーフコミュニティ児童虐待予防対策分科会として位置づけ、活動することについて→了解

- ・宮崎さんが座長となる
- ・区の虐待対応調整チーム(SW含む)もこの事業に入って検討

次回 5/28(木) PM1:30(第1回セーフコミュニティ分科会)

平成26年度 第1回高齢者安全対策分科会 議事録

日時 平成26年9月26日(金) 10時～12時

会場 栄区役所2号会議室

1 挨拶 竹谷会長

2 議題

(1) 高齢者安全分科会について(守田課長)

資料2 P34～40説明

(2) セーフコミュニティにおける行動計画について(吉岡係長)

5つの取り組みと各団体の活動がどのように関連しているのか見てほしい。

「4見守り活動」 虐待への取り組み 資料3で説明(山田)

質問(敬称略)

山本: 虐待内容で多いのは何か。

山田: 身体と経済的。経済とネグレクトが混ざるケースは多い。

山本: 救急搬送されてくるケースも虐待ではなかったか・・・と思われることもある。

コーディネートできるよう、情報共有し、環境づくり・連携が大切。

救急搬送ケースで低栄養で家族が引き取りに来ないケースが多い。

このような時、CP/区役所に連絡したほうがよいのか。

吉岡: 以前ひどいやけどで運ばれたケースについて、病院から連絡があればもっと早く対応できたのではないと思われることがあった。区から虐待者に対し、「虐待しているでしょう」という踏込方はしない。探りながら関わるので通報してほしい。

篠崎: お願いごとだが、共有や連携がうまくいっていない。コーディネートが重要。個人情報等ハードルは難しいが動ける環境づくりを。6CPあるので連携をお願いしたい。

竹谷: ケースに会った時の対応～さかのぼって考えると原因についてはどうか。

山田: 今回の8事例は介護疲れもあると思われる。また、認知症が進行し家族が困っていることもある。

竹谷: 介護疲れを防ぐ方法として、e-mail を使った相談もあるらしい。研究に入れるとSCの趣旨に合うのではないか。また、通報内容をどう共有するか。警察消防は多くの情報を持っているのでアドバイスをもらってはどうか。

竹村: 身体的虐待については、区から情報が来る。ただ立証となると被害届まで行かないケースが多い。密室のため、痣も本人が転んだと言ってしまう。事件化して本人を隔離したいが立件困難。また長期間の隔離も困難。性的虐待も同様。ネグレクト、心理的虐待は事件化困難。遺棄となれば可能だが。心理的虐待はどの程度で判断するのか。

田中：解決の根っこは、原因を探ることに力を置いたほうが良い。

地域の立場では何ができるのだろうと思う。つながりなど共有化。組、班など通常の付き合いの中でわかることがある。地域の連携で話題にして、地域でやれることやりたいことを広めていくことが根っこの解消になる。児童虐待は法律で強引に分離できるが、高齢者はそうではない。

吉岡：原因に認知症絡むケースが多い。家族がこれまでの生活ができなくなりストレスでエスカレートするケースが多いが、認知が絡まないケースも多い。もともとの親子関係。ずっと親を当てにしてきた子供が度を超してくる、それを止められない力関係になっておこる。むしろ認知症が絡まないと区は手が出しにくく苦慮するところである。後ろ盾がないと動けない。区は、虐待をしている人の生活も支援しないといけない立場。家族の再構築。犯人捜しでなく、地域もあたたかく見てほしい。

竹村：警察としては逮捕したからと言って根本解決にはならないと思っている。

地域のサポートが大切。その原因をつくらないことが大切。

竹谷：抱え込まない、見放さないということ。

(3) 各機関から活動状況の報告

有友：NPO いこいで地域交流。トータルでやっているかなと思う。幼児～高齢者まで困ったときに相談に乗っている。ボランティアで運営し、桂台 CP、UR、区とも連携してできる範囲でやれている。9月で4年たつ。常駐しているのが良いと思っている。終末を迎えられるような街になればと思う。

谷：認知症のサポーターを増やすことをやっている。認知症の人をどうサポートするか。桂台は高齢化しているので、家族をどう支えられるか勉強会をしている。協力者を地域に募ったら50人以上集まったが、これまで放っておいてしまったので、H27年1月に研修会の計画をしている。住みやすい地域を目指した活動をしている。

奥代：ボランティア連絡会 29 団体のうち、配食・サロンの団体がある。日常的に CP 調理室で作り、直接手渡しで家との関係もとれている。ちょっとした変化に気づきやすいのがボランティア団体だと思う。支援が必要な家庭に一步踏み込むときに CP や区の橋渡し役として地域に密着した形で活動している。行政はもっとボランティア団体を利用してほしい。

山本：病院は皆さんに世話になることが多い。虐待疑いのある場合は地域につないでいくこと。院内で職員への啓発をしていく。

田中：行政のパートナーとして心と体の健康づくりの役割を担っている。健康づくりは年齢に応じてあるもの。健康づくりと介護予防と分けずに、それぞれの健康づくりができればいいと考える。

熊谷：社福分科会で虐待の早期発見・予防の資料作りをしている。入浴介助等で家庭の様子がわかり、早期発見しやすい DS 職員向けに 30 分程度の内容を作成していく。事業所それぞれに SW が出張して行える旨声掛けしている。1 件ずつ丁寧に実施し、DS で発見してもらえるようにしたい。

浅間：全 CP で元気づくりステーションを立ち上げた。各 CP で介護予防教室を行っている。

地域のサロンで体操や講和などの出前をしている。今年は施設職員向けに疥癬の講演会を企画している。

後藤：低栄養防止、生活見守りで配食を週に 4 回、会食を週に 1 回、それと別に他世代の人たちとの交流活動をしているが、まだまだ孤立の解消にはつながっていない。配食は手渡し、玄関先で生活状況をさりげなく見る。経過を観察しているとゴミの乱雑、身なりなど微妙な変化がわかることがある。配達後記録を取っているのわかる。心配な人は家族、CM、包括に連絡している。会食、サロンは地域に新しい人間関係を作ることのできる大切なこと。しばらく来ない人には連絡している。高齢になってから新しい人間関係を作りには大変なこと。ボランティアが 230 人おり、担い手のつながりがたくさんあるのが地域にとって大切な力。調理ボランティアで 80 代の方もおり、地域のためにと活動することがその人の介護予防にもなっている。

篠原：施設は保護などで受け入れる場所。生活困窮者支援事業の中で経済的虐待などあれば対応していく。情報をしっかり共有しながらやっていきたい。

梶山：主マネは CM 支援+地域の社会資源、関係機関のネットワークを作っていくのが大きな仕事だと考えている。地域ケア会議に第 3 者専門家、警察、司法、商店、など多職種が入ることで支援を考えていく。情報共有し、施策を作ることまで考えていきたい。

金枝：ケアマネージャー連絡会の代表。区内 CM70 名が登録している。スキルアップ研修+ネットワークを作る。個別利用者とのかかわりが強いが介護事業所や住民とのネットワークを作ることも仕事。

高澤：脳血管障害で在宅の人が地域で生活するのを支える場。15 年目。リハビリ教室卒業者が自主的に活動する場としてできたのが始まり。病気があっても介護保険を使わずにという志で始まった。今は併用可能。自主グループがいくつかあるので栄区でのネットワークを広げていきたい。若年認知は中途障害ではないがわーくくらぶ栄の利用も可能。

今野：UR 団地の管理、公田町と駅前を担当。1 階に人感センサーを付けた。運用はお互いさまネットが行う。話し合いをする中で生活に困る人に直面するようになり、警察や区と連携が取れるようになった。問題があればすぐに対応したい。協力しながら良い団地づくりをしていきたい。

竹村：情報共有をしている。高齢者の救急要請が増えている中で不適切なケースが多い。適正利用の冊子を作成し配布している。虐待疑いのケースを目にすることはあっても、以前は個人情報等あり通報しにくかった。区の危機管理担当には通報するようにしている。振り込め詐欺、交通事故防止の注意喚起のため、個別訪問している。情報共有し、地域に還元していきたい。

三善：救急で搬送される高齢者が増えている。救急車を呼ばなくてもいい場合も多く、予防救急の資料作りや話をする機会をもらっている。

からだをみたり、家族との関係から虐待？と思われることもあり、以前は個人情報の問題から十分ではなかったが、今は通報するという認識をしている。その場合は区のどこに連絡をするかがはっきりしているとよい。

竹谷：連携はしているがレベルを上げて活用する体制を作りたい。具体的にはこれから考えましょう。

(4) 今年度の取り組みについて

ヒートショック対策(資料4) 浴槽内の溺水は見過ごしてはいけないだろう。山形県のリーフレットをベースに栄区版を作る。民生、保活、シニアクラブの協力を依頼し広めていきたい。活用方法については各代表と検討していきたいので協力をお願いしたい。

竹谷：パンフレットを作るのは決まっていることのようなので、進めていくしかないが、本来取り組まなければいけないのは虐待にならないように家族負担を早く見つけて緩和すること。ちゃんとそれを確認したほうが良い。

竹谷：各団体の取り組みに質問があればだしてほしい。

奥代：ボランティア分科会で研修時、CPの各職種の仕事を説明してもらった時に気になった言葉がある。「セルフネグレクト」独居、高齢夫婦では介入が困難。重症化する前にうまく介入することが大事だと思う。本人は心の支援が必要。その辺のアプローチはどう考えているのか。

吉岡：虐待の一種と考えている。孤立死はある意味自殺と考えられるが、孤立するには原因があるはず。それまでのかわりがないケースは本当に原因もわからない。区では昨年からの孤立予防事業として民生委員が心配しているケースに看護師が同行訪問しているが、ひとりの看護師では広がりを持たない状態。区では閉じこもりの人を把握できない。周囲の住民からの声が大切になる。

田中：自殺予防分科会でもセルフネグレクトを取り上げてみたい。ハートフルサポーターは自殺のみでなく見守りも担える立場になれば。

竹谷：シニアクラブは名称を老人会から替えたなら人が増えた。

高齢者、地域の福祉に役立てるよう、居場所づくりが大切。

(5) 情報提供

- ・セーフコミュニティフォーラム(10/4(土))の案内
- ・転倒防止講演会(11/6(木))の案内

次回分科会は2月頃に実施予定。日程は改めて連絡します。

平成26年度 第2回高齢者安全対策分科会 議事録

日時 平成27年2月19日(金) 14時～15時30分

会場 栄区役所3号会議室

1 挨拶 多田部長

2 議題

議題に先立ち竹谷座長より、平成27年度、シニアクラブでは、オレオレ詐欺を防ぐ取り組み(40人程度を見守りサポーターとして任命し活動予定)、交通安全キャンペーン、介護予防の評価測定に取り組んでいくとの話あり。

(1) ヒートショック対策の取り組みについて(赤城)

資料1で説明

(敬称略)

田中(伸): ヒートショック対策プロジェクトでは、シャワーで湯はりした際の温度上昇などの実験をもとに検証を行い、その結果をもとに戸建・アパートをターゲットに今年の秋口から本格的に啓発活動を行っていく方向性となった。

(2) 各機関におけるセーフコミュニティ活動の状況について(認知症に対する取り組み)

江口: リーフレットの設置、問い合わせがあれば対応する等を行っている。

田中(伸): 平成27年度、保健活動推進員では認知症をテーマに活動していこうとの方向性が出ており、予防の観点からの取り組みについて講演会が行われることになっている。

田中(文): 一昨年からケアプラザと協働し若年認知症対策プロジェクトを立ち上げ取り組みを進めている。

石塚: 地域の方々が関心を持って取り組まれており、お声かけ頂いて協働して取り組んでいる。今年度は「Nサポーターネットワーク桂台」と一緒に徘徊高齢者の声掛け訓練を実施し、湘南桂台在住の方中心に63名が参加した。他、3Aプログラムなどの活動を通して、介護者が近隣にSOSを出せる地域にしていくための取り組みを進めている。

熊谷: 認知症の方は被虐待者となるリスクが高いことから、認知症の方を介護する家族への声掛け・見守りを進めてもらうため、デイサービス事業所等3か所に対し虐待防止のための出前講座を実施した。今後はケアマネジャー等にも実施していきたい。

梶山: MCI(軽度認知障害)をテーマに2回地域ケア会議を開催。地域活動の担い手のなかにもMCIが疑われる方が増えており相談を受けている状況があるため、10月

からコミュニティカフェ（認知症の方やその家族も参加できるカフェ）のサポーター養成講座を実施している。1月に1回目のカフェ開催し41名参加、2月には52名参加、次回は3/22を予定している。カフェに参加し介護保険申請につながったり、認知症のある方がカフェで役割を担ってくれたりといった場となっている。

竹谷：これまでの役割を継続していくことは大切。そのような状況になっても活躍できる場を作っていく必要があると感じた。

浅間：認知症予防体操を行う元気づくりステーションのグループに対し支援を行っている。また、マンション内で自分の部屋に戻れない方や、管理人に物盗られの訴えをする方の相談も受けているため、3/7にマンション管理人、新聞配達員、コンビニ等へ声掛けし認知症サポーター養成講座を実施する予定である。

矢濱：若年認知症対策プロジェクトは6ヶアプラザ協働で運営を行っている。他、ボランティア講座や3Aプログラムを通して認知症の方に対する支援を行っている。豊田地区では、地区社協・要援護者ネットワークで各サロンへの認知症出前講座や支援者向けサポーター養成講座を実施している。

金枝：日頃から様々な職種と連携しネットワークを形成しながら支援を行っている。薬剤師等との研修を進めている。

今野：管理事務所にも、近隣から物を盗まれた、騒音・水漏れ等の苦情が入る。高齢者の場合は緊急連絡先を意識しながら対応している。団地はどこも高齢化が進んでおり、高齢者への対応を学ぶため区職員を講師に招きUR職員向け研修を実施した。区役所等とも連携しながら高齢者の支援を行っている。

中西：単身高齢者が浴室で死亡する事故はかなり多い。死因はでき死だがヒートショックが引き金になっていると想像できる。認知症については、今年度100人ほど保護したうち人以上が高齢者だった。中には名前や住所が言えない方もいた。長後や中華街まで歩いて行ってしまう方もいるため、普通ではない時間帯に高齢者が歩いていたら声掛けをしてほしい。また、身元が分かるよう下着に名前等を書いてもらうよう呼びかけたい。

振り込め詐欺の被害も急増している。関係団体に啓発を依頼しているが、皆さんにも協力を仰いで進めていきたい。振り込め詐欺に関する講座等の開催があれば出向いて話をさせてもらうので声をかけてほしい。

三善：少しでも高齢者の気持ちが理解できるよう、署内で高齢者疑似体験の研修会を実施した。現場でも活かしていける研修となった。

大塚：キャラバンメイトとしてサポーター養成講座を実施してきたが、区役所、区社協、ケアプラザからの依頼がなくなってしまっているため、以前のように連携してやっていければと考えている。

高澤：中途障害者地域活動センターでも若年性認知症の方も利用していただけるとよいと考えている。

白川：ボランティア分科会には30団体が所属しているが、どの団体も新たな担い手の不足が課題となっている。様々な機関との協働を模索しており、2/9には企業とボランティアの協働のための研修会を実施した。

堀田：豊田地区では早くから認知症に関心を持ち取組みを進めてきた。川崎幸クリニックの杉山医師を講師に講演会を実施し70, 80人が参加。その後、認知症出前講座をサロン等に出向き実施した。一番大事なのは身近な病気であると理解してもらうことで、気づきや予防につながることを意識して講座を行っている。

篠原：日々認知症の方と関わっているが、施設を知ってもらうための取組みとして毎年秋に区内施設合同で福祉フェスタを行っている。

吉岡：キャラバンメイトの皆さんのお力を発揮して頂きたいと考えており、3月にキャラバンメイト連絡会を実施する予定となっている。

区の認知症に対する取組みとしては、カウンセラーによる介護者相談を今年度から実施している。月1回2組の相談を受けているが、対象者がいれば案内してほしい。

(3) 平成27年度高齢者安全対策分科会の取組みについて

吉岡：平成27年度は早めにヒートショックの啓発に取り組んでいきたい。また、栄区はオレオレ詐欺の被害額高く被害者の多くは高齢者であるため、防止のための取組みもしていく必要があると感じている。キャラバンメイトの皆さんとの協働も進めていきたい。

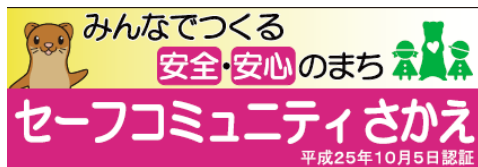
篠原：ケアプラザが地域包括ケアの核となり、地域への発信を強化していく必要がある。施設としても協力していきたい。また、自治会町内会、民生委員との連携が重要であると思うので、区・区社協等も働きかけを強化してもらいたい。

吉岡：セーフコミュニティを一般区民が進めていくものにすることが一番の課題と感じている。各組織でもセーフコミュニティに対する理解が広がるよう、取組みを進めていただきたい。

3 その他

次回分科会について：平成27年度第1回分科会を6月ごろ開催予定。日程は改めて連絡します。

徘徊高齢者SOSネットワーク及び高齢者虐待防止合同連絡会：3月18日(水)14時～16時開催。



平成 26 年度

第1回 栄区セーフコミュニティ推進協議会
災害安全対策分科会

日時:平成 26 年7月 15 日(火)15 時 30 分から

場所:栄区役所新館4階 7号会議室

次 第

- 1 栄区セーフコミュニティについて 資料 1
- 2 平成 25 年度セーフコミュニティ活動について 資料 2
- 3 平成 26 年度災害安全対策分科会の活動について 資料 3
- 4 平成 26 年度の防災（震災対策）の取組について 資料 4
- 5 その他

意見交換

※次回分科会は平成 26 年 10 月頃を予定しています。

太字は新任

災害安全対策分科会委員

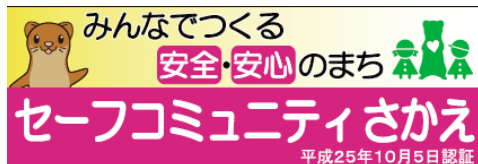
平成26年6月20日現在

| 所属 | | 氏名 | 出欠 | |
|-----|--------------------|------------|----|----------------------|
| 座長 | 栄区連合町内会 | 磯崎 保和 | ○ | 栄区連合町内会長 |
| | 栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会 | 毛利 勝男 | ○ | 栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会会長 |
| | 栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会 | 石山 俊雄 | ○ | 笠間小学校地域防災拠点運営委員会会長 |
| | 栄消防団 | 加藤 正基 | ○ | 副団長 |
| | 栄区火災予防協会 | 小石 栄美 | ○ | ㈲二本松物産 |
| | 栄区水害対策連絡協議会 | 石井 禎一 | × | 長尾台町内会長 |
| | 栄区自衛消防隊連絡協議会 | 武田 政美 | ○ | 住友電工株式会社横浜製作所 |
| | 栄区社会福祉協議会 | 田中 文子 | ○ | 事務局長 |
| | 栄区小学校長会 | 南谷 寿子 | ○ | 小山台小学校校長 |
| | 栄区中学校長会 | 村本 淳一 | × | 桂台中学校校長 |
| 事務局 | | 栄区副区長 | ○ | 神山 篤 |
| | | 栄区総務課長 | ○ | 清水 文子 |
| | | 危機管理担当係長 | ○ | 古谷 敏夫 |
| | | 栄土木事務所管理係長 | × | 三輪 和義 |
| | | 栄消防署副署長 | × | 稲田 勝人 |
| | | 栄消防署予防課長 | ○ | 九十九澤 稔 |

| 平成 26 年度 第 1 回災害安全対策分科会 | | |
|-------------------------|--|--|
| 日 時 | 平成 26 年 7 月 15 日 (火) 15 : 30 ~ 17 : 00 | |
| 開催場所 | 栄区役所 新館 4 階 7 号会議室 | |
| 次 第 | 1 栄区セーフコミュニティについて 2 平成 25 年度セーフコミュニティ活動について 3 平成 26 年度災害安全対策分科会の活動について 4 平成 26 年度の防災 (震災対策) の取組について 5 その他 意見交換 | |
| 議 事 | 1 栄区セーフコミュニティについて | |
| | 磯崎委員 | セーフコミュニティを知っている人はまだ少ないので、町内会、消防団、防災拠点などでも周知していく必要がある。 セーフコミュニティの再審査はいつか。 |
| | 事務局 | 地域の方々が日々行っている活動がセーフコミュニティにつながっているということを再度周知していきます。 再審査は認証から 5 年後です。分科会ごとに目標設定をしているので、継続的な取組が求められています。年次ごとに書類報告を行っていきます。 |
| | 加藤委員 | 地域防災拠点訓練に参加する人が増えれば、セーフコミュニティも広まっていく。 |
| | 南谷委員 | 顔の見える関係をつくるためにも学校の児童・生徒が参加する訓練を行うことが大切である。 |
| | 2 平成 25 年度セーフコミュニティ活動について | |
| | 小石委員 | 栄区で自殺が多いのはどの年代か。 |
| | 事務局 | 年代による大きな偏りはありません。自殺者を減らすために、さかえ・ハートフルサポーター (ゲートキーパー) の果たす役割は大きいと考えています。 |
| | 加藤委員 | 市内 18 区では栄区の自殺者数は多いのか。 |
| | 事務局 | 2006 ~ 2008 年平均の自殺死亡率 (人口 10 万人比) は、市内で 3 位となっています。メンタルによる自殺の割合が多くなっています。 |
| | 田中委員 | こども安全対策分科会で公園にある遊具の点検を行っているところがあるが、大人向けの健康遊具の事故はあるのか。事故があるなら今後対策を検討していく必要がある。 |
| | 事務局 | 公園の管理は土木事務所が行なっているが、現在のところ事故の報告はありません。 |

| | |
|----------------------------|---|
| 3 平成 26 年度災害安全対策分科会の活動について | |
| 小石委員 | 家具の転倒防止は重要なことであるが、家のつくりなどによって対策は変わってくるので有効な方法を周知していく必要がある。 |
| 事務局 | ご相談があった際に個別に対応していきます。 |
| 4 平成 26 年度の防災（震災対策）の取組について | |
| 石山委員 | 地域防災拠点に備蓄されている水缶が回収されて減っているが、どのような理由で減らしたのか。 |
| 事務局 | 東日本大震災で備蓄の総数を増やしたが、その分を元に戻すことになりました。地域防災拠点からは引き上げるが、横浜市の南部倉庫には引き続き備蓄されます。地域防災拠点の備蓄庫の大きさにもよるが、作業するスペースも必要かと思います。 |
| 磯崎委員 | 学校の生徒・児童のための備蓄は行っているのか。 |
| 南谷委員 | 小学校の児童を発災時に留め置きした際のための備蓄はあるが、スペースの問題もあり数量は多くはない。 |
| 毛利委員 | 地域防災拠点以外にも様々な避難所があるが、そのような避難所に対する備蓄は区で行うことは可能か。 |
| 磯崎委員 | 地域防災拠点以外は短期の避難所として想定している。短期の避難所の備蓄については、自助・共助でお願いしたい。 |
| 南谷委員 | 取組の中で女性などに配慮した避難所という話があったが、災害弱者への配慮は大切なことである。避難所となる学校の体育館のトイレが和式なので、車イスの方などのことを考えると洋式化するのが望ましい。 |
| 事務局 | 区からも市へ要望していきます。 |
| 5 その他 意見交換 | |
| 磯崎委員 | 今年度の地域防災拠点の訓練についてお願いします。 |
| 石山委員 | 笠間小学校地域防災拠点では、今年度から学校児童も参加した訓練を行う。三角巾を使った訓練やけむり体験などのプログラムに参加してもらおう。 |
| 磯崎委員 | 学校児童が参加した地域防災拠点の訓練についてご意見があればお願いします。 |
| 南谷委員 | 小山台小学校では、AEDの取扱いやトイレの組み立て訓練などを行った。小学校の高学年になると自分である程度のことはできるので、防災の担い手としての活躍が期待できる。 防災訓練に児童が参加することによって地域の方々との顔の見 |

| | | |
|--|------|--|
| | | える関係をつくることができることは大切なことである。 |
| | 磯崎委員 | 消防団員の募集についてお願いします。 |
| | 加藤委員 | 消防団員数は定年や引っ越しなどによって減っていくが、新たに入団される方が少ない。地域のイベントで消防団員の募集についてのPRを行っていく。多くの消防団員が現役で仕事をしているので平日に発災すると地元に戻ってこれないかもしれない。地域防災拠点の訓練に地域の方も参加していただき、初期消火活動ができるようにしていくことも大切である。 |



平成 26 年度

第2回 栄区セーフコミュニティ推進協議会
災害安全対策分科会

日時:平成 26 年 12 月 5 日 (金) 15 時から

場所:栄区役所新館4階 7号会議室

次 第

- 1 災害安全対策分科会の取組進捗状況について ……資料1
- 2 平成 26 年度 防災の取組について(11 月末現在) ……資料2
- 3 さかえセーフコミュニティフォーラムについて ……資料3
- 4 台風第 18・19 号に伴う対応について ……資料4
- 5 セーフコミュニティの認知度を高める取組について ……資料5
- 6 その他

※次回分科会は平成 27 年3月頃を予定しています。

災害安全対策分科会委員

平成26年12月5日現在

| 所属 | | 氏名 | 出欠 | |
|-----|--------------------|-------|----|----------------------|
| 座長 | 栄区連合町内会 | 磯崎 保和 | ○ | 栄区連合町内会長 |
| | 栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会 | 毛利 勝男 | ○ | 栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会会長 |
| | 栄区地域防災拠点運営委員会連絡協議会 | 石山 俊雄 | ○ | 笠間小学校地域防災拠点運営委員会会長 |
| | 栄消防団 | 加藤 正基 | ○ | 副団長 |
| | 栄区火災予防協会 | 小石 栄美 | ○ | (有)二本松物産 |
| | 栄区水害対策連絡協議会 | 石井 禎一 | × | 長尾台町内会長 |
| | 栄区自衛消防隊連絡協議会 | 武田 政美 | ○ | 住友電工株式会社横浜製作所 |
| | 栄区社会福祉協議会 | 田中 文子 | × | 事務局長 |
| | 栄区小学校長会 | 南谷 寿子 | ○ | 小山台小学校校長 |
| | 栄区中学校長会 | 村本 淳一 | ○ | 桂台中学校校長(代理出席:海津善宣) |
| 事務局 | 栄区副区長 | | ○ | 神山 篤 |
| | 栄区総務課長 | | ○ | 清水 文子 |
| | 危機管理担当係長 | | ○ | 古谷 敏夫 |
| | 栄土木事務所管理係長 | | ○ | 三輪 和義 |
| | 栄消防署副署長 | | × | 稲田 勝人 |
| | 栄消防署予防課長 | | ○ | 九十九澤 稔 |

| 平成 26 年度 第 2 回災害安全対策分科会 | |
|-------------------------|---|
| 日 時 | 平成 26 年 12 月 5 日 (金) 15:00~16:00 |
| 開催場所 | 栄区役所 新館 4 階 7 号会議室 |
| 次 第 | 1 災害安全対策分科会の取組進捗状況について 2 平成 26 年度 防災の取組について (11 月末現在) 3 さかえセーフコミュニティフォーラムについて 4 台風第 18・19 号に伴う対応について 5 セーフコミュニティの認知度を高める取組について 6 その他 |
| 議 事 | 1 災害安全対策分科会の取組進捗状況について 2 平成 26 年度 防災の取組について (11 月末現在) |
| | 石山委員 防災マップを全戸配布したが、見てもらえていないケースがある。拡大印刷したものを作成して地域の掲示板等にはるのはいかがでしょうか。 |
| | 事務局 防災マップを配布する前に周知する必要があった。 |
| | 武田委員 発災時には会社の会議室が災害対策本部になるので、そこに防災マップを掲示している。 栄区全域が載っているマップも必要だが、自分の住んでいる地域に限定したマップがあっても良いのではないかと。 |
| | 小石委員 防災マップの配布と併せて、日頃の防災に対する意識が高まるような啓発を行うことが大切である。 |
| | 加藤委員 水害は地域によって土地の高低差があるので、住民の意識に差がでてしまう。地域の特性に合わせた啓発が必要である。 |
| | 南谷委員 学校と地域と一緒に防災訓練を行うのは、今年で 3 年目となった。学校では、毎月防災訓練行っているの、児童の防災に対する意識は高まっている。 |
| | 海津委員 発災時に中学生は地域の人と一緒に活躍することができる。 文化祭で生徒による防災に関する発表が行われた。 |
| | 3 さかえセーフコミュニティフォーラムについて |
| | 磯崎委員 地域で行われている祭りや運動会等でセーフコミュニティの啓発を行い、認知度を高める必要がある。 |
| | 南谷委員 富士見台祭りでは、「さかえっこ体操」が行なわれていた。祭りを盛り上げるのと併せてセーフコミュニティの啓発にもなっていた。 |
| | 4 台風第 18・19 号に伴う対応について |
| | 石山委員 風水害時も区役所の職員だけではなく、地域防災拠点の運営委員の力を借りて避難所開設・運営を行うべきである。 |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 南谷委員 | 学校の鍵は、区役所でも保管しておくべきである。 |
| 事務局 | 区役所でも鍵を保管できるようにします。 |
| 毛利委員 | 風水害の対応に関するマニュアルを策定するべきである。 |
| 加藤委員 | 台風は、天気予報を確認すれば早めに対策をとることができる。 夜に降雨のピークが予測される際には、避難することがかえって危険な場合もある。そのような場合には、暗くなる前の早めの対応が必要となる。 |
| 5 セーフコミュニティの認知度を高める取組について | |
| 事務局から現在行われている取組について紹介 次第3の際に意見交換 | |
| 6 その他 | |
| 特になし | |

平成 26 年度 栄区セーフコミュニティ 第 1 回自殺予防対策分科会

日時：平成 26 年 6 月 19 日(木)
13 時 30 分～15 時 00 分
場所：栄区役所本館 4 階 2 号会議室

1 開会

2 報告

- (1) 平成 25 年度自殺予防対策の取組について 資料 1
- (2) 平成 25 年度第 2 回栄区傷害サーベイランス分科会資料について 資料 2
(平成 26 年 3 月 7 日開催)
- (3) 区役所職員対象 さかえ・ハートフルサポーター基礎研修について 資料 3

3 議題

- (1) 平成 26 年度自殺予防対策の取組について 資料 4・5

4 情報交換

5 その他

【次回日程】

日時：平成 26 年 8 月 7 日（木）13 時 30 分～15 時 00 分
場所：栄区役所新館 3 階 3 0 9 号



平成 26 年度栄区セーフコミュニティ 第 1 回自殺予防対策分科会 議事録

日時：平成 26 年 6 月 19 日(木)13 時 30 分～15 時 00 分

場所：栄区役所本館 4 階 2 号会議室

出席者：委 員 横浜市立大学学術院医学群教授 河西委員（座長）

栄区民生委員児童委員協議会副会長 芦川委員

横浜市栄区生活支援センター所長 牛尾委員

栄区商店街連合会会長 臼井委員

栄区医師会副会長 江口委員

栄区薬剤師会会長 北内委員

栄区保健活動推進員地区会長会議会長 田中委員

栄消防署予防課長 奈良輪委員

横浜市豊田地域ケアプラザ所長 宮島委員

オブザーバー 京都府立医科大学法医学教室 垣内氏

横浜市立大学保健管理センター 安東氏

栄こころの相談室 吉田氏

こころの健康相談センター職員 山上氏

事務局 栄区長 尾仲

福祉保健センター長 小山

福祉保健センター担当部長 多田

福祉保健課長 守屋

高齢・障害支援課長 守田

福祉保健課事業企画担当係長 宮島

高齢・障害支援課障害支援担当係長 多田

福祉保健課事業企画担当職員 松本

高齢・障害支援課障害者支援担当職員 境田、綿芝

1 開会

【区長挨拶】

栄区は、昨年 10 月にセーフコミュニティ都市として認証を取得した。自殺予防対策も始めて 3 年経過。セーフコミュニティをきっかけに自殺予防対策に本腰を入れてきたが、地域への浸透はまだこれから。栄区では、福祉の分野として地域の中でお互いを支え合う仕組み、言わば共助の仕組みを作っていく。その中で自殺予防対策をどう盛り込めるか、ハートフルサポーターとして裾野も広げてきているが、もうワンランク上のサポートできる人を地域の中でどうつくるかが課題。また、消防や警察、病院などの自殺に遭遇する機会が多い機関と連携してやっていくことも必要。委員の皆様のご意見・ご協力をいただきながら、本当の意味での自殺予防対策ができる自治体になっていきたい。

【事務局より委員紹介】

2 報告

(1) 平成 25 年度自殺予防対策の取組について

事務局（宮島・多田）：資料 1 にて報告

河 西 委 員：さかえ・ハートフル通信はとても大事な取組。他の自治体でもゲートキーパー育成をしてもそのまま放置されている現状がある。通信を出したりイベントに招請するなど、働きかけを行うことはとても大事なこと。

(2) 平成 25 年度第 2 回栄区傷害サーベイランス分科会資料について

事務局（宮島）：資料 2 にて説明

評価指標について、進捗状況を傷害サーベイランス分科会で報告した。25 年度の取組実績、自己評価、26 年度に目標としていくことについて書かれている。自殺予防対策分科会は、順調に目標をクリアし着実に進んできている。効果的な啓発、今後取り組むべき支援については、まだ課題もある。区民理解については、現状未把握なので今年度中に評価測定を考えている。

事務局（小山）：補足として、傷害サーベイランス分科会はセーフコミュニティの認証をとるためには、原因究明・取組の評価をするための体制を整えている必要があり設置している。

田 中 委 員：傷害サーベイランスの資料などは、事前に委員に配布してもらいたい。じっくり読んだうえで説明をしてもらえた方が、いろんな質問などが出てくる。十分読める時間を与えてもらえるとよい。

河 西 委 員：傷害サーベイランス分科会では、どういうコメントがあったのか。

事務局（守屋）：自殺予防対策分科会については特にコメントはなかった。

オブザーバー垣内氏：この傷害サーベイランス分科会に出席した。7つの分科会それぞれでデータの収集・分析をしていると思うが、傷害サーベイランス分科会が中心となって消防や警察にデータ提供の依頼するのか、各分科会が独自性をもって提供依頼していくのか、検討していくべき。自殺予防対策分科会は独自にデータをもらっているが、他の分科会はまだそこまでデータに基づいた活動になっていないのではないかと思う。他の分科会が今後自殺予防対策分科会のように消防や警察にデータを依頼していくとなると、各分科会から個々に依頼すると先方の負担も重くなるので、傷害サーベイランス分科会でとりまとめることも考える必要がある。

事務局（尾仲）：傷害サーベイランス分科会では、区内 12 万人の人口の中のデータだけ

でみていってよいのか、もう少し狭い地域ごと見た方がよいものもあるのではないかという意見があった。地域レベルのデータから、地域の個性をどうみていくか考えることも必要。データの取り方も、区域全体で見えていくものと地域ごとに見えていくものの整理が今後の課題ではないか。

(3) 区役所職員対象 さかえ・ハートフルサポーター基礎研修について

事務局（多田）：資料3にて報告

今年度の転入・新採用職員はほぼ受講した。また、昨年度未受講者も受講。受講後、事務職の職員からとても勉強になったという感想があった。

河 西 委 員：事業として区の中で進めているので、研修内容を標準化し、どの対象に対してもほとんど同じ内容で研修している。職員向け研修のアンケート結果を見ると、「参考になった」という評価が多い反面、知識の向上は「やや向上した」「向上した」が拮抗している。職員にとってはすでに既知のことが多く、それ以上の必要な知識を与えることができていないのかもしれない。今後は、基礎研修後にテーマ別研修を設定し、受講したいテーマを選んでもらうことも考えたい。

3 議題

(1) 平成26年度自殺予防対策の取組について

事務局（宮島・多田）：資料4・5にて説明

田 中 委 員：今日まで着々と取組が進んできていると思う。自殺予防という1つの面だけでなく、児童虐待など、様々な課題が地域にはある。冒頭の区長の挨拶にもあったように、地域の共助力をいかし、地区レベルまで取組が浸透していくことが大切ではないか。昨年度の区民アンケートの結果によるとセーフコミュニティの認知度が非常に低い。まだまだ浸透しきれていないのが実態。

一方で、地域福祉保健計画はこれから第3期になる。そういう中に今まで取り組んでいなかったもの、セーフコミュニティも入れていくべき。もっと行政が積極的に地域に打って出ることが必要ではないか。第3期地域福祉保健計画策定の過程の中で、各地区の会議等の中でセーフコミュニティの話をしてもらいたい。画一的な話ではなく、地域の特徴をデータから把握し、具体的な内容を話してほしい。そういう取組により、地域の共助力につながるのではないか。

また、東京都には共助力という指数がある。いずれはそういったものもあるとよいのではないか。

事務局（小山）：現行の地域福祉保健計画にもセーフコミュニティの文言は載っているが、

第3期でその関連性・位置づけについてどう整理していくか議論しているところ。セーフコミュニティの活動を具体的に地域の人に伝えて普遍化していくにはどうしたらよいか。田中委員が言った方法も含め、地域に入って進めていきたい。栄区のセーフコミュニティの認知度は約11%。他都市は60%認知度があるとも聞いている。これからセーフコミュニティそのものの認知度と活動内容について、区民の皆様と議論しながら浸透させていきたい。

宮 島 委 員：今年度の予定に、さかえ・ハートフルサポーター研修の対象として昨年度はあった介護保険事業所、障害者関連施設職員がなくなっている。昨年度の同対象への研修の受講者は12人と少なかったようだが、地域包括支援センターやケアマネージャーなど「死にたい」という相談を受け対応方法に不安を抱えているという声を聞く。引き続き職員向けの研修を継続した方がよいのではないか。他でやっているゲートキーパーの研修を受けさせたこともある。まだまだ職員には自殺予防に関する研修を受けると意識も低いと感じているので、研修の機会があることを伝えていくので、対象として考えてほしい。

事務局（多田）：昨年度は介護保険事業所、障害者関連施設職員対象に実施したが、結果的には受講者少なかった。今年度研修の予定には含めていないが、メンタルヘルス支援ネットワークに出席してもらい、事例を通して学ぶ機会はある。

河 西 委 員：メンタルヘルス支援ネットワークで困難事例の検討をしている。前回は、現場のヘルパーなどが四苦八苦している事例だった。現場の職員向けの研修は必要だと思う。認知症など高齢者の問題は多いのに、なぜ研修の参加者が増えないか不思議。掘り起しをすれば出席者増えるのではないか。

事務局（守田）：研修対象については、検討させてもらう。

河 西 委 員：今までも心の問題やメンタルヘルスが大事だとどこでも言われているが、具体性に欠けていた。自殺予防対策の良さは、その対応法がかなり実践的で具体的なところ。漠然とではなく、具体的な目標設定をした上での、メンタルヘルス対策、福祉対策を検討するので、そのプロセスは、他にも活用できるのではないか。

追加資料について。地域自殺予防対策のトピックスとして、NOCOMIT-Jが発表されている。北東北から九州鹿児島まで、14か所の地域でプログラムの介入研究が行われた。7地域が介入地域、7地域が対照地域。特に郡部で効果があった。なぜ都市部でうまくいかなかったか

というと、プログラムの履行率の問題。都市部では履行率が低かった。適切なプログラムを設定してそれを忠実に行えば効果は出るということがわかった。このプログラムと栄区の取組に差があると栄区での取り組みの効果は期待できない。現在、事務局にNOCOMIT-Jの内容と栄区でのこれまでの取り組みの異同について整理をしていただいている。今後、NOCOMIT-Jの中心になっていた方を招き勉強会を行う予定。

もう一つの追加資料は、消防局から提供していただいた救急搬送データ。栄区の自殺者数について、統計学的な分析を行うことは難しい。そこで自損行為の搬送データを併せて複合的なデータとして分析する必要がある。これから細かく分析し傾向をみて、対策を検討していく。

オブザーバー吉田氏：年間の取組スケジュールの中の横浜職域ネットワークへの参加呼びかけについて、今年度はどんな工夫をするのか。

事務局（宮島）：昨年度は栄区からは1社の参加。今年度も引き続き区内企業の連絡会での声掛けや個別の声掛けで参加企業数を増やしていきたい。

河西委員：一般区民対象の講演会、健康づくりの講座について何かアイデアがあれば。

田中委員：さかえ・ハートフル通信の下のグラフについて、取組を始めてから4年くらい経つが、自殺者数がだんだん上がっている。ある程度振り返りしながら、PDCAのAの段階で評価が大事なのではないか。活動はきめ細かくやりつつあると思っているが、亡くなった方が増えていくというのは、評価に値しないとみる人もいるのでは。WHOも目標管理を重視していると思うので、少なくとも横這いでないかだめなのではないか。自殺はそんな簡単な問題ではないと思うが、何が問題なのか、今までやってない方法を検討する余地があるのではないか。自殺予防に関心のない人、他人ごとと思っている人も結構いる。それは、情報が入っていないことに起因しているのでは。情報をきちんと伝えること。どこまで伝えるかには論議はあると思うが、これまで伝えなさ過ぎたのではないか。地域福祉保健計画の推進メンバーくらいには、地区別の情報を出すべきではないか。

河西委員：平成20年にリーマンショックがあり、その後から多くの地域で自殺が増えている。北東北で成功したという地域でも増えている。増えているのは栄区だけではない。取組をしている人の心理的面も大事。精神福祉保健対策を行えば自殺は減らすことができるということは実証済なので、そこはぶれずに進めていくべき。ただし、少なくとも5年、10年はたゆ

まず取り組みを続けていく必要がある。

4 情報交換

事務局（宮島）：各機関・会の代表として出席していただいている委員の皆様には、それぞれの機関・会で様々な取組をしていただいていると思う。栄区全体で取り組む活動としてさらに活発に進めていくきっかけとして、委員の皆様方の取組について情報交換をしていただきたい。

まず始めに、地域での取組として芦川委員から、上郷東地区民生委員児童委員協議会の取組をご紹介いただきたい。

芦川委員：民生委員が地域を回っていると、認知症ではないが普通の人と違う、対応に困ったということがあった。中野地域ケアプラザに相談し、生活支援センターの協力も得て、精神障害者の話を直に聞く講習会の機会を作った。全部で50人くらい集まり、精神障害の方3名、うち2名の方はご自分で話をしてくれた。精神障害は誤解されている、ちゃんと話をできるコミュニケーションもとれると言っていた。自分でつくった詩をギターで歌ってくれ、自分たち以上にきちんとした方で、誤解していたと思った。ある女性は、自分の生い立ちを話してくれた。その生い立ちで苦勞し悩んだこともあったが、前向きにいろいろ取り組んで、大勢の前で話せるようになったという話だった。

話を聞きながら、精神障害というとニュースでも大変な事件があるように思うが、あればごく一部のことで、精神障害について意識転換を図らなければならないと思った。理解を深めていかななくてはならないと感じた。研修を実施してよかった。生活支援センターの話では、自殺される方も結構いるという話だった。だからこそ、周りの人が理解することで、自分自身を追い詰めていくことがなくなるという話だった。

河西委員：踏み込んだ取組だと思った。オブザーバーのこころの健康相談センターから、取組について紹介を。

オブザーバー山上氏：3つのパンフレットを配布している。市民向けのゲートキーパー育成は各区で行っているの、市としては市民向けには研修を実施していない。市としては「みんなでゲートキーパー宣言」というパンフレットで市民に啓発をしている。

自殺対策事業として、うつ病のことをもっと知ってもらうため、パンフレットを2種類作った。今日お配りしたのは3部作目の最後のもの。周りの人がうつ病になったらどう接したらよいか書いてある。うつ病の方ご本人が目にもすることも考慮し、パンフレットの裏面に自殺について記載している。精神疾患の人がすべてではないが、多くの方が自殺に傾くと言われているのでそういった取組にもつなげていきたい。

3種類目のパンフレットは自死遺族の支援のもの。自死遺族の集いを月1回開催している。この集いは、自死遺族しか入れない。

自殺対策の取組はすぐに効果が出るわけではない。いろんな人に知ってもらい、自分とは関係ないことではないことを知ってもらうことからつなげていきたい。

河 西 委 員：続いて、上郷東地区の取組に協力された生活支援センターから紹介をお願いしたい。

牛 尾 委 員：生活支援センターがどういうものか、知られているようで知られていない。心の病のある方が地域で安心して暮らせるように支援する場所。精神障害者は怖いイメージあるが、我々と変わらない方がほとんど。そのような方が自由に過ごし、語らう場が生活支援センター。情報提供する場所、地域と交流場所でもある。その他、病院から退院するときの地域移行、地域定着支援や地域での生活を支援する自立生活アシスタントなども行っている。ケアマネに近いような相談にのる事業も行っている。自殺者の98%が精神的な病気を抱えているが、周囲でなかなか相談できないという方がいれば、気軽に相談してもらいたい。皆さんのご協力とともにセンターで支えていきたい。

河 西 委 員：名前は知っているけど中身は知らないことが多いという話があったが、こころの健康相談センターは他の都道府県、政令市では精神福祉保健センターという名前で設置されている。都道府県、政令市における精神福祉保健対策の統合機関、最上部の機関なので、その役割は大きい。栄区との関係においては、自殺予防対策について技術的な支援もこころの健康相談センターにお願いできる。自死遺族については、委ねている部分もある。生活支援センターはより地域に密着した機関。委員の皆さんの周りで心配な方がいる場合は、どういう支援が可能か直接相談してもらっても構わないと思う。

上郷東で講座をやった経緯はどうだったのか。

芦 川 委 員：民生委員として勉強したいということでやった。

河 西 委 員：地域ケアプラザも地域の大事な機関だが、何か情報はるか。

宮 島 委 員：地域の身近な相談窓口としてある。地域の中のいろんな課題がケアプラザには集まってくる。精神障害の方の近所トラブルなども日々出てきている。必要なケースは生活支援センターと地域包括支援センターが連携しながらそれぞれの役割で支援している。

また、地域の課題に対して、講座を行ったりしている。昨年度は広い

意味での傾聴ボランティアを育成するため、講座を実施した。オブザーバーの吉田氏にも協力してもらった。

セーフコミュニティの一環としては、豊田地区としてあいさつ運動を推進している。飯島中学校から始まったあいさつ運動を地域に広げていこうということで取り組んでいるところ。あいさつをすることでお互いがお互いを見守りあえる地域づくりを行っている。

河 西 委 員：傾聴ボランティア講座の講師として吉田氏が協力したということだが、何か補足などはないか。

オブザーバー吉田氏：傾聴ボランティア講座は、2回に分けて実施した。民生委員や地域の方など20人くらい参加された。相手の気持ちになって聴くことなど、話をした。

河 西 委 員：今回から初めて参加された北内委員から何かあれば。

北 内 委 員：H22から取組が行われているようだが、薬剤師会が今まで入っていなかったのが驚き。薬剤師は自殺したい人の一番近くにいる職種ではないかと思う。過去に一度、リストカットして薬を処方した後、担当した薬剤師がその方の様子が気になって翌日電話をしたところまさにまたリストカットしようとしていたところだった。その後区役所にもつないだ。この一件は、ちょうど研修で河西先生の研修を来た後のことだった。底辺は広いが、着実にこういったことが知られていくことが重要だと思う。

メンタルヘルス支援ネットワークがあることも今回初めて知った。研修は受けたが、自殺に傾いた人に対応するときはどうしたらよいか方策が知りたかった。

自殺対策強化月間のキャンペーンでも、薬剤師は1人だけの参加で、あとは民生委員の方などの参加だけだった。薬剤師ももっと役に立ちたいので、今後協力していきたい。

オブザーバー吉田氏：今までの情報交換を聞きながら考えたこと。生活支援センターに4年勤め、その間地域のメンタルヘルスに関わっていきたくと思った。地域ケアプラザと連携していると、地域包括支援センターで対象にしている人の家族に精神障害の方がいたりする。生活支援センターは区域に1つしかないのも、もっと地域に近いところでやりたいと思い笠間に事業所を作った。

関わっている方の3分の1くらいは、「死にたい」「生きていても…」と訴える人。生活の中で声かける人もいない、話しかける人もいない辛さ。そういう人たちの力になるには、その生活の場で話しかけていく、地域の身近なところで支えあい、つながり合い、声掛けすることが必要。

そういう支えあいをつくるには、行政だけに頼らず、自分たちで支えあうつながりが必要なのではないか。

河 西 委 員：そういうことに気づいてもらうために、区民向けの講演会などを活用していけるとよい。

江 口 委 員：医師会でも市民向け講演会などをやっている。今までは自殺予防についてはやっていないが、今後はそういうところでパンフレットを配るなどの協力ができるのではないかと思う。

5 その他

事務局（宮島）：次回の分科会は8月7日（木）。9月の自殺対策強化月間の取組を中心に御意見をいただきたい。地域で広げていくにあたり、区役所では「生活情報お届け隊」という出前講座で自殺予防対策もメニューとして取り扱っている。皆様からも要望があれば何うことも可能なので、皆様の所属や身近な地域でも自殺予防の啓発が広がるように是非協力をお願いしたい。

平成 26 年度 栄区セーフコミュニティ 第 2 回自殺予防対策分科会

日時：平成 26 年 8 月 7 日(木)

13 時 30 分～15 時 00 分

場所：栄区役所新館 3 階 3 0 9

1 開会

2 報告

栄区メンタルヘルス支援ネットワーク開催について

資料 1

3 議題

9 月自殺対策強化月間及び 10 月メンタルヘルス講演会について

資料 2

4 情報提供

さかえセーフコミュニティフォーラムの開催について

資料 3

5 その他

救急搬送（自損行為）データについて



平成 26 年度栄区セーフコミュニティ 第 2 回自殺予防対策分科会 議事録

日時：平成 26 年 8 月 7 日(木)13 時 30 分～15 時 00 分

場所：栄区役所新館 3 階 3 0 9 号

出席者：委員 横浜市立大学学術院医学群教授 河西委員（座長）
栄区民生委員児童委員協議会副会長 芦川委員
横浜市栄区生活支援センター所長 牛尾委員
栄消防署警防第一課長 宇元委員（奈良輪委員代理）
栄区医師会副会長 江口委員
横浜栄共済病院地域医療支援センター 木村委員
横浜市豊田地域ケアプラザ所長 宮島委員
オブザーバー 横浜市立大学保健管理センター 安東氏
栄こころの相談室 吉田氏
こころの健康相談センター職員 山上氏
事務局 栄区長 尾仲
福祉保健センター長 小山
福祉保健センター担当部長 多田
福祉保健課長 守屋
高齢・障害支援課長 守田
福祉保健課事業企画担当係長 宮島
高齢・障害支援課障害支援担当係長 多田
福祉保健課事業企画担当職員 松本
高齢・障害支援課障害者支援担当職員 境田

1 開会

【区長挨拶】

今年 10 月はセーフコミュニティ認証 1 周年。認証を取得することが目的ではなく、取得した後にはどのような行動をとったかが大切。この 1 年間その行動がとれたかをそれぞれ振り返りながら、来年以降どうしていくかを検討しているところ。行政区という立場でセーフコミュニティ認証取得したということで全国的に注目を受けており、先日、京都府議会議員の視察を受けた。その他、セーフコミュニティの認証取得がどのようなメリットがあるのか、どうしたら認証取得できるのかという問合せもきている。栄区の中だけでなく、全国的にも注目を集めている中で、認証取得後の行動をしっかりとやっていきたいと思っている。自殺予防対策分科会はセーフコミュニティの柱になる分科会なので、今後も活発な議論と目標に向けた取組のご協力をお願いしたい。

2 報告

栄区メンタルヘルス支援ネットワーク開催について

事務局（多田）：資料 1 にて報告

河西委員：当日の事例は、関わっている支援者が皆困っている統合失調症の事例だ

った。初めて参加した薬剤師会の方が事例対象者に類似の事例を経験しているということがわかり、いろいろつながったのがよかった。ネットワークでつながっていれば、こういう方がいらしてますよ、などとプライバシーを保護しつつも行政や主治医に情報提供できるかもしれない。徐々にネットワークが機能していけるとよい。

ミニ講座は、基礎知識だけでなく、それを踏まえたうえで、難治性統合失調症をどのように理解し、対応したらよいかに重点を置いていった。参加された方から感想などあればお願いしたい。

木村委員：病院で事例対象者のような方に会うことはないが、地域でそういう対象者の方がいて医療との連携がうまくいかないと困っているということで、病院側でも工夫してできることはないかと思った。

オブザーバー吉田氏：薬局にそのような方が来ていて、薬剤師が違和感を感じていたけどどうしたらいいかと距離を置いていたら離れていってしまったという話だった。生活支援センターとの連携、区との連携ができていければよかった。薬局との連携が必要なんだと思った。

江口委員：当院でもそのような事例があり、病院の先生とうまくいなくて関係が切れていた状態で、当院で健康診断を受け、精神科の治療もしてほしいと言われた。一般の内科でこれまでの病院の紹介状もなく統合失調症の治療をすることはできないと伝えたが、睡眠薬だけでもいいから出してほしいと言われ、睡眠薬だけ1週間分、2週間分と出していた。このままではまずいと思い、区に連絡し対応方法などを聞いていた。本人は入院治療が必要だという認識は全くなく、どこも悪くなく眠れないだけ、と言っていた。最終的には警察が絡むような事案が起り入院した、と聞いた。

行政側も家の中まで踏み込んでいくのは難しく、近所から連絡があってもなかなか難しいが、以前あった事例では、安否確認ができないということで中に入り措置入院に至ったこともあった。ご本人だけでなく、周りの親族も辛い病気だが、医療につながるのが一番難しい。

見てくれる家族、親族もいないような事例では、病院から出てきて地域で生活するとなったときも大変だと思う。精神的な病気だとどうしても精神科の医師に頼らざるを得ないので、その仕組みがほしい。すぐに見てくれる仕組みはなかなかない。

河西委員：栄区は精神科病院がなく、精神科病床も精神科クリニックもない。医療資源に乏しい。栄区で精神保健相談を行っていた加藤先生が戸塚で開業しているので、協力は得られると思う。また、横浜医療センターも閉鎖病棟があるので対応可能。メンタルヘルス支援ネットワークは、毎回難しい事例が多いが、基本的な理解と対応を少し勉強するだけで、こういうことだったのかと整理がつく。

事務局（境田）：提供事例は、非常に難しいケース。20年近くの間わりがあり、そのほとんど半分が入院生活。地域で暮らすのは難しい。いろいろやるがうまくいかない。支援者もエンパワメントを受けないと支援を継続できない。自分

で抱え込まないことが必要。そのためにネットワークが必要だと思った。
次回は11月下旬の予定。

河 西 委 員：皆様にも来てもらいたいし、各機関の職員の方にも来てもらいたい。非
公式なネットワークとしても広がってきている。

3 議題

9月自殺対策強化月間及び10月メンタルヘルス講演会について

事務局（宮島）：資料2にて説明

河 西 委 員：9月10日は世界自殺予防デーということで、いろいろなところでキャ
ンペーンが行われる。市でも行うということで、こころの健康相談セン
ターからご紹介をお願いしたい。

オブザーバー山上氏：横浜市では、横浜駅で「あなたに知ってほしい」、「9月10日って何の
日？」というリーフレットを2つ折りにしたものと、講演会と特別相談
会のお知らせを両面刷にしたチラシをティッシュに入れて配る。9月10
日11時から8,000部を配布。例年、40分程度で配布し終わる。今まで
いろんな時間帯にやったが、11時がお昼に出てくる人が多く、いろん
な人にお配りできる。

河 西 委 員：健康づくりは、対策がうまくいっている東北や九州でも実施してきたこ
とであり、よい取組。健康づくりは糖尿病など各論があるが、健康は全
体的なことなので、各論のところうつ病対策、自殺対策、周産期のこ
と、子どものことなど、少しずつ入れていくことは取組例としてある。
東北などでは、“健康まつり”や健診などでその場で相談できるように相
談員を配置していたりする。血压を測るブースで顔見知りの保健師が「最
近困ったことないですか」と話を聴いたりしている。大和市でも、ブ
ースをつくり司法書士やソーシャルワーカーを配置し、プライバシーにも
配慮したが、なぜかほとんど相談者がいなかった。ブースを作るべきだ
とは言えないが、検討の余地はあると思う。

江 口 委 員：区の健康づくり月間では、屋外で健康相談やっているが、結構人が来
る。多重債務は話しにくいかもしれないが、医療相談はちょっと来て話
をする人はたくさんいる。

事務局（守屋）：例年11月に行っている区民まつりの中の健康づくり月間のブースで医
師会にも入っていただいている。

河 西 委 員：自殺対策として、区の相談窓口などにつながるとよい。相談対応されて
いる医師会のブースに自殺対策のリーフレットなどを置いてもらうこと
はできるのか。

江 口 委 員：今年是非リーフレットを置きたいと思う。

オブザーバー吉田氏：その他のホットライン周知用カードの配布について。ホットラインの相
談員をやっていて、去年から相談が1件もない。どう周知していったら
よいか、障害者支援担当と話し合いをし、地域ケアプラザなどから周知
してもらうためにカードの配布することになった。

事務局（多田）：カードは、高齢者用と一般用の2種類作成している。

オブザーバー山上氏：メンタルヘルスの講演会で、対象に中学生の保護者とあるが、中学生の内容ということだけでなく、保護者に聞いてほしいということなのか。

事務局（多田）：思春期以降のお子さんをもっている親御さんがご自身のことを含め、SOSのサインについて説明し、理解してもらおうと考えている。講演会の内容としては、SOSのサインを知ってもらい、気づいてもらうこと。何をしても楽しめないなどの状態が続いているのは、うつ病の可能性があるとということを知ってもらい、身近な人がそういう状態になったときに気づき、相談窓口につなげてもらえるようにすることが目的。まだ案の段階なのでご意見いただきたい。

河 西 委 員：最初は一般的なタイトルだったが、うつ病の講演会などはみんな聞き飽きているし、興味をもってもらえないと集まらないと思い、タイトルも内容も変えて実施したいと思っている。うつ病の徴候より、危険ドラッグや認知症高齢者など、情報が錯そうする中で正しい知識をもって対処しましょうということを伝えていきたい。こういう講演会は、健康な人が来て、具合の悪い人にはなかなかつながらないことが多い。そうであれば、むしろこれまであまり聞いたことがなく知的に刺激のある内容にした方がよいかなど、いろいろ検討しているところ。

今回の9月10日のキャンペーンでは、過去に研修を受講した、さかえ・ハートフルサポーターには声かけするのか。

事務局（宮島）：情報提供してほしいと登録している人には声をかける。

河 西 委 員：さかえ・ハートフルサポーターの研修受講後の活動が課題になっている。一案として、セーフコミュニティ認証取得一周年の記念行事で来賓としてご案内してもよいのではないか。あとは、さかえ・ハートフルサポーターの証しとして、バッジを作ることも事務局で検討している。何かインセンティブをつけるとよいのではないか。

事務局（多田）：資料にはないが、10月6日（月）の午後に、さかえ・ハートフルサポーターのスキルアップ研修がある。昨年度受講していただいた、民生委員や保健活動推進員の方を対象に行う。

河 西 委 員：2002年から横浜市立大学の救急救命センターで自殺未遂で搬送された人に対して支援を実施しており、2005年からは全国17施設で同じ取組を行うという共同研究が行われてきた。昨日の朝、その研究成果が世界に発表された。厚労省の予算を使った大規模なプロジェクトで1,000人くらいの患者さんに協力してもらった、日本の精神学史上最高の研究。それを自殺対策強化月間に当て、9月4日に厚労省でプレスリリースとプレス会見する。できたら、それを横浜市でもプレスリリースできないか検討中。また、9月11日から自殺予防学会がある。

牛 尾 委 員：生活支援センターとしても、自殺予防週間で啓発用ポスター掲示、利用者に対する相談窓口一覧を配布。また、月1回の利用者ミーティングでも啓発したい。

河 西 委 員：生活支援センター利用者も複雑な病気の方もいるし利用者の裾野も広がっている。支援組織でもあるし、貴重な情報提供源にもなると思う。

4 情報提供

さかえセーフコミュニティフォーラムの開催について

事務局（宮島）：資料3にて報告

河 西 委 員：どのくらいの方に周知し、またどういう観客層なのか。

事務局（守屋）：これから周知をしていく。公会堂の規模は600人。

事務局（尾仲）：併せて、広報よこはまの10月号はセーフコミュニティ特集号とする。

このフォーラムは毎年やっていきたい。毎年毎年こだわりをもって、テーマを決めてやっていく。今回は、他都市とのつながりをメインにし、他都市との人的なつながりをもつことを目的として開催する。

河 西 委 員：各分科会の取組をアピールということでパネルの展示があるようだが、学会などだとパネルの前に担当者が立って説明したりする。タウンニュースなどのメディアの方も来るのなら、対応できる人がいれば関心も広がるのではないかと。常に相方向性があった方がよい。

吉 田 委 員：前回の分科会でセーフコミュニティの区民の認知度が10%と聞いたが、こういうことを一年に一回でもやりながら少しずつ区民に周知させていけばいいと思う。

河 西 委 員：区長がおっしゃるように、認証取得後が大事。毎年続けることで広がっていくと思う。

5 その他

救急搬送（自損行為）データについて

河 西 委 員：救急搬送の自損行為のデータの一部を配布している。前回は自損行為の搬送者数だけ提示したが、今回は、指令月別件数と傷病者年齢別件数。指令月別件数を見ると、11月は30件、12月は34件、1月は37件。全体的に見ると、3月、4月で多くなった後、一度下がり、7月、8月で再び増えた後は、11月～1月辺りが年間の中では少ない傾向。

宇 元 委 員：感想としては、寒い時期は少ない印象。

河 西 委 員：まだ分析はしていないのでわからないが、よく言われているのは、命日記念または命日反応と言い、何かショッキングな出来事があった命日に自殺を試みるということはある。一方で、人はおめでたいときを選んでわざわざ自殺しないという傾向もある。例えば、欧米ではクリスマスの日には自殺が少ない。日本だとお正月がそれに当たるかもしれない。年末年始に少ないのはそのせいかもしれない。

また、傷病者年齢は、搬送された人の年齢層。20代～40代前半が圧倒的に多い。横浜市立大学の救急救命センターともほぼ一致。17施設での共同研究でも同じ傾向。亡くなる方平均年齢の方がやや高い傾向があると思う。栄区の人口構成とも関係あるかもしれない。もしかしたら、数は少ないけ

れど、50代、60代の方の自殺死亡の比率は高いかもしれない。若い方は自殺で亡くなる方の比率は低く、未遂で助かる方の方が多いかもしれない。今後細かく分析していく必要がある。

事務局（守屋）：前回の搬送者数でいくと年間約50人。10年間で約500人。このくらいの数字だと、統計学的に傾向がみられるものか。

河西委員：自殺率では10万人当たり25人。どこの現場でも統計解析できない。そこに自殺未遂の方の数を合わせることで、地域の自殺の傾向を統計学的に解析できる。

データ分析は、まだ試行錯誤の段階であり、これからもいろいろお示ししたい。

宇元委員：消防としては、予防的な対策がなかなかできない。こういう会があると、現場に行ったときの対応や家族への対応に活かせると思う。データについては河西先生がおっしゃる通り少なすぎる。できることは協力していきたい。

江口委員：病院側からのデータは見たことがないが、自殺未遂して救急搬送され、外科処置されて自宅に帰ってから首を吊って亡くなったという事例あった。自殺未遂の患者さんが搬送されてきた場合、精神科の医師が診察するまでは自宅に帰さないという話も聞いたことはある。全部がそうできてはいないと思うが、病院での対応はどうなっているのか。

河西委員：ACTION-Jという大規模研究では、救急救命センター入院中に介入し、退院した後も継続的にサポートすると自殺を抑止できたという成果がある。自殺をしてから再企図するまで6～9か月。これを根拠にして施策化しようという動きにはなっているが、多くの病院が処置をしたらそのまま帰している。県内では他には北里大学がこのプロジェクトに関わっている。

江口委員：精神科の医師がいる病院でないと、次の日の朝、精神科医につなぐことはできない。治療された医師もそのまま自宅に帰すのはストレスだと思う。なるべく、地域の医療機関で連携をとって診ていくのが望ましい。ケースワーカーだけが対応して帰すというのは気の毒。

河西委員：二次救急は苦境状態。研究で成果を出したのは、三次救急の病院。精神科医のいない体制の中での対応は現状では難しい。横浜栄共済病院ではどうなっているか。

木村委員：自傷行為で搬送されてくることもあるが、必ずしも全例精神科医が関わるわけではない。処置が終われば帰るとというのが原則。ケースワーカーが地域の方と連携して帰すということが多い。

河西委員：救急救命センターは、ずっとフォローアップしていくところではない。その後のサービスはなかなか入らない。せめて翌日ソーシャルワーカーのところに相談にきて対応してくれればよい。自殺対策の所管課はどこの自治体にもあるし、栄区はセーフコミュニティの事務局があるので、そこにリーフレットを渡して相談窓口につなぐこともできなくはない。今後、ネ

ットワークの事例で取り上げたりできるとよい。

オブザーバー吉田氏：病院の中でソーシャルワーカーにつなげるのは、難しいのか。

河 西 委 員：難しいのは、救急搬送されてくるのは夜間の時間外。その時間帯にはソーシャルワーカーがいなく、なかなか介入のチャンスがない。

オブザーバー吉田氏：例えば、翌日その患者の情報をソーシャルワーカーに流していくとか。

河 西 委 員：おそらく一泊で退院できず複雑な状況であれば、ソーシャルワーカーにつなぐということもできると思う。

木 村 委 員：そういうケースは直接医師から連絡が入る。当院で対応できない場合は、近隣の病院にお願いする。閉鎖病棟がないので、管理ができない。家族がいる場合は自宅に帰っていただく場合の方が多い。

河 西 委 員：ソーシャルワーカーにつながればよいが、そうはいつでも単なる情報提供だけでは助からない。私たちの研究成果では、個別的なケース・マネジメントがポイント。

宮 島 委 員：豊田地区では、支えあい連絡会の中で地域の課題を話し合っている。連合の磯崎会長が地域の方にセーフコミュニティのことも発信してくれている。少しずつ区民に広がっていくことで認知度も上がっていくのではないかと。ケアプラザも地域の方々と関わる場で発信していきたい。

芦 川 委 員：民生委員は自殺や命に直接関わることはないが、そういう現実を理解し、他の委員に伝えていきたい。

河 西 委 員：自殺の7割以上は自宅で起きる。掘り起こせば困っている方たくさんいらっしゃると思うので、委員の皆さんに協力をお願いしたい。

牛 尾 委 員：9月、10月の取組についてチラシなど出るなら利用者にも周知していくので、いただきたい。

河 西 委 員：どんな対象者や人数でも講演や研修できるので、是非呼んでもらいたい。

事務局からの連絡

事務局（宮島）：9月の取組については、市の取組と一緒に記者発表していく。お手元に配布しているメモ帳は駅前キャンペーンで粗品として配布する。各委員においても取組可能なことがあれば、栄区の自殺予防対策に今後ともご協力をお願いしたい。次回分科会は2月の予定。

平成 26 年度 栄区セーフコミュニティ 第 3 回自殺予防対策分科会

日時：平成 27 年 2 月 19 日(木)
15 時 00 分～16 時 30 分
場所：栄区役所新館 4 階 9 号

1 開会

2 報告

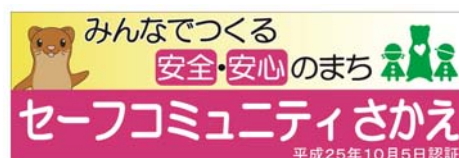
- (1) 自殺予防対策取組状況について 資料 1

3 議題

- (1) 3 月自殺対策強化月間の取組について 資料 2
- (2) 今後の自殺予防対策取組及び平成 27 年度の取組案について 資料 3

4 その他

- (1) 自殺統計データについて 資料 4



平成 26 年度栄区セーフコミュニティ 第 3 回自殺予防対策分科会 議事録

日時：平成 27 年 2 月 19 日(木)15 時 00 分～16 時 30 分

場所：栄区役所新館 4 階 9 号

出席者：委員 札幌医科大学大学院医学研究科精神機能病態学主任教授 河西委員（座長）

栄区民生委員児童委員協議会副会長 芦川委員

横浜市栄区生活支援センター所長 牛尾委員

栄区医師会副会長 江口委員

横浜栄共済病院安全管理室師長 川島委員

栄区薬剤師会会長 北内委員

神奈川県栄警察署生活安全課長 竹村委員

栄区保健活動推進員会会長 田中委員

栄消防署予防課長 九十九澤氏（奈良輪委員代理）

オブザーバー 京都府立医科大学法医学教室 垣内氏

横浜市立大学保健管理センター 安東氏

栄こころの相談室 吉田氏

こころの健康相談センター職員 山上氏

事務局 栄区長 尾仲

福祉保健センター長 小山

福祉保健センター担当部長 多田

福祉保健課長 守屋

高齢・障害支援課長 守田

福祉保健課事業企画担当係長 宮島

高齢・障害支援課障害支援担当係長 多田

福祉保健課事業企画担当職員 松本

高齢・障害支援課障害者支援担当職員 境田

1 開会

【区長挨拶】

セーフコミュニティ認証取得して1年が経った。全国で7番目の認証だったが、その後、松原市、久留米市、北本市と徐々に認証都市が増えている。その中で、自殺予防の取組をセーフコミュニティの中で行っている都市はあまりない。栄区は自殺予防がセーフコミュニティの代表的な取組の一つ。これからもセーフコミュニティ認証都市の誇りの中で取組を行っていきたい。

【委員紹介】

2 報告

(1) 自殺予防対策取組状況について

事務局（宮島）：資料1にて報告

河 西 委 員：キャンペーンに参加された方から感想があればお願いしたい。

田 中 委 員：朝は通勤の人が多く忙しいので、今回のようにティッシュくらいがよい。
午後は思ったより多くの方に参加していただいた。継続する必要があると感じた。

オブザーバー山上氏：駅に向かう方にも渡せたので、まさに区民の方にお渡しできたと思う。

河 西 委 員：ティッシュは 500 個配ったが、あっという間に終わってしまった。もう少し配ってもよいのではないか。

メンタルヘルス講演会の関心度はどうだったか。

事務局（宮島）：今回初めて一般区民向けに講演会を開催した。自殺予防から少し裾野を広くし、うつ病をテーマにした。アンケートより、参加したきっかけは「うつ病を知りたい」と「自殺予防を知りたい」が半々だった。うつ病をきっかけに自殺予防を知ってもらおうという、間口を広げる意味で成果が得られた。また、「何か役に立てることを考えていきたい」という感想もあった。今後も一つの手法として取り入れていきたい。

河 西 委 員：宮崎市では、保健師の活動が活発。引退した保健師OBが現役の保健師と連携しながら、地域で活動している。健康づくりの講座や健診の中で四方山話をしているところから介入していく。地域を訪問しながら活動している。「自殺」という入り方もときには必要だが、「健康」という視点からだ入りやすいよう。

メンタルヘルス講演会は、「高齢化社会」や「職場のメンタルヘルス問題」など、わかりやすいテーマから入るとよいのではないか。

メンタルヘルス支援ネットワークはどうか。毎回 40 人近く参加し、事例検討の題材はいつも困難事例だが、参加者で話し合う中で濃い事例検討ができています。江口委員や薬剤師会で関わっている事例も取り上げられている。

事務局（境田）：事例の関係者が参加しているため、検討することで解決のヒントが得られる。前回の事例も、その後動きがあった。事例検討をきっかけに関係者でチームアプローチを行うことができています。その後の支援に活かされている。

河 西 委 員：支援経過の見直しや今後の支援方針の確認にもなる。

オブザーバー吉田氏：メンタルヘルス講演会について、「そよかぜ」という傾聴グループの人が講演会に出席したと言っていた。傾聴の仕方に悩んでいたようだが、少しヒントを得られたよう。

メンタルヘルス支援ネットワークは、毎回難しい事例で、どこからどう取り組んでよいかわからないものが多い。

3 議題

(1) 3月自殺対策強化月間の取組について

事務局（宮島）：資料2にて説明

SAKAEヤングフェスティバルは、区内の中学生と青少年指導員が企

画するイベント。併せて中学生の駅伝大会も行われる。そのイベント会場で自殺予防のリーフレットを配布する。今年度初めての取組。分科会委員の皆様にもご協力をお願いしたい。

竹 村 委 員：さかえ・ハートフルサポーターの研修について、警察官が自殺企図者やその家族に接する機会がある。その際に不用意な接し方をしてはならない。適切な対応ができるよう、次年度、署員向けの研修をお願いしたい。

河 西 委 員：素晴らしい取組。以前、消防署員向けに実施した。是非、実施してもらいたい。

3月の取組について、医師会や薬剤師会からご意見あればお願いしたい。

江 口 委 員：相談窓口のリーフレットを外来に出すほか、直接は関係にないが、認知症の相談医であるオレンジドクターとして、患者が相談しやすい環境をつくっていく。

北 内 委 員：薬剤師会からキャンペーンに参加し協力したい。また、薬剤師会でも傾聴の技術を身につけたいので、是非スキルアップ研修を行ってほしい。

(2) 今後の自殺予防対策取組及び平成 27 年度の取組案について

事務局（宮島）：資料 3 にて説明

次の再認証に向けて、二点、重点的な取組を行う。今後、傷害サーベイランス分科会でも報告をしていく。また、27 年度は、先ほど竹村委員からご提案のあった警察署員向け研修も加えていきたい。

田 中 委 員：自殺予防対策分科会だけでなく、セーフコミュニティの認知度を上げる必要がある。今は、各分科会が縦割りになっている。分科会同士の交流もなく、自治会・町内会の役員レベルの方に情報が入って来ない。セーフコミュニティの内容について知る機会が少ない。分科会の会議の中で、関係者で議論するのはよいが、それを地域の方に伝えていく必要がある。例えば、連合の広報部会で毎回報告の時間を設ける、連合でセーフコミュニティ委員を選んでもらうなど、仕組みを検討した方がよい。

芦 川 委 員：年間計画の中でお願いがある。民生委員の定例会の中で自殺が話題になることがない。認知症や高齢者虐待のことは話題になるが、それらが自殺につながるという意識がない。栄区で発生している自殺について、どういう状況で自殺に追い込まれているのか、事例を通して民生委員に教えてほしい。

事務局（守屋）：さかえ・ハートフルサポーターの基礎研修は、民生委員向けにも行っている。上郷東地区の民生委員児童委員協議会などに出前講座に伺うこともできる。

オブザーバー吉田氏：神奈川県精神保健福祉士協会の求人情報の中で、先日、横須賀市役所で、自殺未遂者に対する訪問、面接、相談窓口の紹介、継続的支援をする週 5 日勤務の非常勤職員の募集があった。栄区でもそのような取組ができるとよいのではないかと思った。

河 西 委 員：山梨県、秋田県など、都道府県で同じような取組をやっているところ

がある。病院と契約して実施しているところが多い。保健所や精神保健福祉センター、病院など、調整の主体は自治体によって様々。情報の把握・共有については、それぞれ工夫しているようだが、同意が前提なので支援できるケースは限定される。

田 中 委 員：各分科会の委員や関連する方には専門的な研修が大事だと思うが、地域の人にとっては、自殺、児童虐待、高齢者虐待、認知症による徘徊など、様々な課題がある。自殺はハートフルサポーター、認知症はオレンジリボン、と分野ごとに分かれている。しかし、地域レベルでは内容によって分けるのは難しい。要は、地域の中での見守りをどうやっていくかということ。セーフコミュニティ全体のことに関心をもって取り組む体制、話し合える場も必要なのではないかな。

大人が病んでいることによって、様々な問題が起こる。そんな大人(親)をサポートすることによって、最悪の事態を避けることができるのではないかな。

事務局(尾仲)：まさにセーフコミュニティのコミュニティの部分。地域で安全安心を支えている方は、多方面で活躍している。分科会の連携は大事。

情報の伝達については、7つの地区に情報をどう伝えていくかが基本。例えばゴミを減らす運動については、毎月ゴミの量を地区連合の広報部会で報告している。しつこいと言われるくらいやり続けている。その結果、毎年ゴミの量は減り続けている。毎回資料を回覧するので、浸透している。セーフコミュニティについても、こんな議論をしているということ毎月伝えていくことで、区民の皆様の情報共有と認知度向上につながるのではないかな。

認知度向上について、平成25年のアンケートでは10%だった。昨年の秋には21%になり、倍増した。他都市でも多くて3割くらい。人口が多いほど難しいよう。ここで満足せず、地道に積み重ねていく必要がある。

高齢者の関係では、地域ケア会議の中で地域の人と情報共有している。自殺予防についても地域の人と情報共有してスピーディーな対応をしていく必要がある。

河 西 委 員：転入者に栄区がセーフコミュニティ都市であることを周知するチラシなどはあるのか。

事務局(尾仲)：本日配布しているリーフレットがある。

河 西 委 員：セーフコミュニティの基準があって、それを認証しているということが伝わるか。ただの栄区のスローガンのように思われないか。

事務局(尾仲)：試作の段階で、WHO目線のものと同区民目線のもの、2パターン作成したが、初めは区民目線のものの方がよいということでこの形になった。

河 西 委 員：特別な区に引っ越して来たという感じを持ってもらえるとうい。

以前から言っていることだが、栄区の自殺予防の取組が1次予防(事前予防)に偏っている。リスクを持っている人に直接介入する取組が足

りない。この分科会自体がネットワークになっているが、あくまでもプランをつくる場。地域で活動している人たちのネットワークがまだ弱い。そういう意味では、メンタルヘルス支援ネットワークが、年3回では少ない。もっとアクティブに動かないといけない。

また、困っている人やリスクを抱えている人への間近なところでの介入として、駅前団地で集中的に配るなど、重点的な施策が弱い。

田中委員から意見があったように、今年度から他分科会との連携も始まっているが、さらに力を入れて実施していく必要がある。

プランニングするネットワークと地域で実働するネットワーク、地域の見守り役という2重構造プラス接着剤のような構造があるとよい。北東北などではその構造でうまくいっている。

牛尾委員：生活支援センターとしては、精神的な疾患がある方の対応をしている。もう少し生活支援センターで相談に力を入れて取り組んでいきたい。関連して、ひきこもりについて検討を始めている。

また、生活支援センターについて地域に知ってもらう工夫もしていき、地域の中でメンタルヘルスに不調を抱える人への気づきがあった際には、可能な限り生活支援センターで受けられるようにしていきたい。

河西委員：生活支援センターだけでは抱えきれないものは、ネットワークで対応していけるとよい。

オブザーバー吉田氏：いのちとこころのホットラインを2年やっているが、相談件数が少ない。区からの周知として、できることはやってもらっている。それでも件数が少ない。どうしたらよいかということで、地域の方から伝わっていく仕組みをつくる必要があるのではないか。連合の広報部会で委員を選んで、行政とのつながりの中で伝えていくことが必要なのではないか。

河西委員：セーフコミュニティは官民協働で取り組んでいくものだが、さらに地域に広げていくための手法はあるのか。

事務局（尾仲）：表のコミュニティと根のコミュニティがある。学校では、問題を抱える児童が増えている。その原因は、従来は学校教育にあるとされていたが、9割以上は家庭に問題がある。今回栄区で、学校では支援しきれない児童に対して寄り添い型学習支援というものが新たに始まるが、子どもたちのことについて地域にどれだけ情報が伝わっているかというところ、ある部分では知っているがある部分では知らない。回覧をすればすぐに伝わるというものでもない。地域ごとにあるネットワークを行政が理解しながらどう伝えるか、地域ごとに考えていくことが必要。少し時間がかかるが大事なこと。

河西委員：田中委員からも話があったように地域にセーフコミュニティのことを知ってもらう必要があると思うが、地域に伝える仕組みがないのか、仕組みはあってもうまく伝わらないのか。

事務局（小山）：既存の組織はできているので、それをどう活性化させるかが課題だと

思っている。セーフコミュニティの認証をとるにあたり、進捗状況を毎月、区連会で報告していた。セーフコミュニティ推進協議会には全地区の連長と全分科会の座長も入っている。その仕組みがある中で認証を取得した。今後、その仕組みをどう活用するか。今日いただいたご意見をもとに、検討していきたい。

事務局（尾仲）：セーフコミュニティという用語をとにかく知らせるのは、小山が言った方法で拡がっていくと思う。一方で、地域で見守りを行っていく、というところでは、地域によって状況が異なるので、丁寧にやっていく必要がある。

事務局（小山）：直接介入が弱いというご指摘があった。事務局としても課題として考えていたところ。よい知恵があれば教えてほしい。

河西委員：病院も重要な拠点の一つ。自殺の一定割合は病院の中で起きている。自殺未遂があったときに区に連絡をするなどは可能か。

川島委員：情報交換をしていくことは十分可能。病院から地域へ、地域から病院へというのがあってもよい。

4 その他

(1) 自殺統計データについて

事務局（守屋）：資料4にて説明

オブザーバー山上氏：平成25年の横浜市の自殺者数は622人、平成24年は621人とほぼ横ばい。栄区は自殺予防の取組をしているので、減ってきているのではないか。最新の警察統計からは、平成26年は日本全体としてさらに減る見込み。60代以上の男性と30歳までの若い世代の自殺者数が多いため、平成25年は他が減っても全体として変わらない状態。情報を伝えたい人にどう伝えていくか、市役所や区役所に来ない人にどう伝えていくかが課題。

河西委員：消防の救急搬送データも含め分析していく必要がある。神奈川県は女性の自殺が多いのか。以前そういう発表があったが。

オブザーバー山上氏：女性に関してはわからないが、総数でみると横浜市の自殺死亡率は、一昨年前は20ポイントだったのが、今は16.8まで下がっている。全体的には下がっているが、多いところはほとんど変わっていない。

事務局（守屋）：統計データは、取扱注意のためこの会議止まりとしてもらいたい。

(2) その他

田中委員：URや市営住宅のハード面の対策を行わないといけないのではないかと。高齢者安全対策分科会の中でも、URから委員として参加しており、入居者の高齢化が進んでいて家賃の滞納などが課題になっているよう。URと情報交換するなど何かできないか。

河西委員：URも民間団体なので、行政で指示するのは難しい。大和市では委員会で提言をつくり大和市長と一緒に相鉄線等に伝えた。例えば推進協議会名で作成して市長や区長に投信して伝えていくというのをやってもよ

いのではないか。

事務局（尾仲）：自殺が起きたところについて、善後策を打つというのは当然と言えば当然。相談はしているので、今後状況をお伝えしていく。

オブザーバー山上氏：新しくできたリーフレット「ご家族や大切な方を自死（自殺）で亡くされたあなたへ」をお配りしている。これまで、自死遺族の集いや自死遺族のホットラインなどのご案内と、自死遺族について知っていただくためのご案内を今までは2種類のリーフレットに分けていたが、1つにまとめコンパクトにした。活用してもらいたい。

河 西 委 員：3次予防にあたるもの。栄区の3次予防の取組は既存のリーフレットなどを活用することになっているので、このリーフレットを活用していく。

最後に、私事だが、昨年12月末から転勤し、現在札幌医科大学の精神科の主任教授として着任したため、この3月で座長を退任する。ここで学んだことを札幌でも取り組んでいきたい。

事務局（宮島）：今回は次年度開催。3月22日のキャンペーンに参加できる方は10時半に本郷台駅前改札前にお越しいただきたい。また、セーフコミュニティのリーフレットお配りしている。活用していただける場合は、必要数を事務局まで連絡してほしい。